



取扱説明書

FAPJ106Nシリーズ
FCSJ106Nシリーズ
FAPGJ106Nシリーズ
FCSGJ106Nシリーズ

P型1級

火災受信機

複合火災受信機

GP型1級

ガスもれ火災受信機

ガスもれ複合火災受信機



注意

ご使用前に、この取扱説明書をよくお読みください。
また、本文中に記載されている注意事項をよく読み、理解した上でご使用ください。

- この製品は定期的な保守点検を必ず行ってください。

NOHMI

もくじ

はじめに	4
安全上のご注意	7
保守点検について	10
音響の種類	11
点滅周期について	12
「寿命部品」の定期交換について	14
運用管理編	15
1 各部の名称と機能	16
本体(全体図)の名称と機能(スイッチカバーを開けた状態)	16
補助灯の名称と機能	18
スイッチ操作部の名称と機能	19
ガスもれ検知器用電源操作部の名称と機能	21
メニュー画面	22
イベント発生画面	23
2 運用の流れ	25
3 平常時の監視状態	26
4 火災信号を受信したら	28
5 火災警報を発したら	29
本機の動作と操作	29
火災音響、地区音響(地区ベル)を停止するには	31
付属設備の動作と操作	32
6 火災が鎮火したら	37
本機の復旧操作	37
付属設備の復旧操作	39
7 ガスもれ信号を受信したら(ガスもれ機能付の場合)	40
8 ガスもれ警報を発したら(ガスもれ機能付の場合)	41
本機の動作と操作	41
ガスもれ音響を停止するには	43
付属設備の動作と操作	43
9 ガスもれの対処後は	45
ガスもれ対処後の本機の復旧操作	45

もくじ

10 異常警報を発したら	46
本機の動作と操作	46
異常警報一覧	47
異常音響を停止するには	49
11 訓練モード	50
保守点検編	51
1 各部の名称と機能	52
補助灯の名称と機能	52
スイッチ操作部の名称と機能	53
ガスもれ検知器用電源操作部の名称と機能	55
メニュー画面	56
2 故障機器遮断	57
3 手動の保守点検試験	59
準備	59
火災・他 試験	65
予備電源試験	74
蓄積時間試験	76
ガスもれ遅延時間試験(ガスもれ機能付の場合のみ)	77
自動復旧による感知器作動試験	78
試験復旧による感知器作動試験	79
4 定期受信回路試験	80
5 施工・点検支援モード	81
付録	83
1 スイッチ注意要因一覧	84
2 日時設定	85
3 履歴リストについて	86
履歴リストを確認するには	86
履歴リストを一括消去するには	90
履歴一覧	91
履歴リストの保存方法	98
4 メッセージ表示機遮断	99
5 データベース設定の確認	100

もくじ

6	SDカードの取り扱いについて	103
7	説明書(二次元コード)	104
8	電話の取り扱いについて	105
9	操作無効機能	106
	操作無効機能を設定するには	106
	操作無効機能を解除するには	106
10	仕様	107
	索引	112

はじめに

このたびは、弊社のP型1級火災受信機、P型1級複合火災受信機、GP型1級火災受信機、またはGP型1級複合火災受信機をご採用いただき、まことにありがとうございます。この商品は消防法の規格に基づく各種の試験に合格した国家検定品です。

火災時またはガスもれ時に備え、正しくお使い頂くためにこの説明書をよくお読みください。

本書の読み方

ここでは本書の使い方や、本書で使用する警告やマークの意味などについて説明しています。

本書の構成と使い方

本書は、P型1級火災受信機、P型1級複合火災受信機、GP型1級火災受信機、およびGP型1級複合火災受信機の操作について対象者別に分けて説明しています。必要な箇所をお読みください。

● 運用管理編

火災受信機の監視を行う方が対象です。監視時の注意事項や、火災時やガスもれ時の処置などについて説明しています。

● 保守点検編

火災受信機の保守点検を行う方が対象です。火災受信機の点検方法などについて説明しています。

● 付録


火災受信機の設定や操作についての補足事項を説明しています。

警告表示について

警告表示は、警告文と警告レベルを表す記号の組合せで表示されます。





■ 警告文

危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをした場合に生じるおそれがある内容を、「危険」、「警告」、「注意」、の3つに区分しています。

	危険	取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負うか、防災機能に致命的な悪影響を及ぼすおそれがあることを示しています。
	警告	取り扱いを誤った場合、使用者が重傷や傷害を負うか、防災機能の一部に重大な悪影響を及ぼすおそれがあることを示しています。
	注意	取り扱いを誤った場合、使用者が傷害を負うか、防災機能に悪影響を及ぼすおそれがあることを示しています。また、防災機能を長期にわたって有効に活用する上で、ぜひ守ってほしい事項について示しています。




はじめに

■ 記号

	爆発するおそれがあることを示しています。
	危険・警告・注意を促す内容があることを示しています。
	禁止内容を示しています。
	行為を強制したり、指示したりする内容を示しています。

本文中のマークについて

本文中のマークについて以下に説明します。

操作	操作箇所を示しています。
	火災受信機をお使いになる上で、知っておきたいことを示しています。
	火災受信機をお使いになる上で、注意していただきたいことを示しています。
	火災受信機で点滅する箇所を示しています。

はじめに

本文中の表記について

本書では、以下のように関連機器、関係者、マニュアルを表記しています。

関連機器、関係者、マニュアル	表記
P型1級火災受信機／複合火災受信機FAPJ/FCSJ106Nシリーズ、GP型1級ガスもれ火災受信機／ガスもれ複合火災受信機FAPGJ/FCSGJ106Nシリーズ	本機
本機に接続される設備(火災感知器、ガスもれ検知器、発信機、表示灯、地区音響装置、表示機、防排煙設備、消火設備、非常放送設備など)	付属設備
自動火災報知設備を保守点検、修理する会社	保守点検契約先
甲種四類消防設備士、乙種四類消防設備士、第二種消防設備点検資格者	有資格者
『P型1級火災受信機／複合火災受信機FAPJ/FCSJ106N/S、GP型1級ガスもれ火災受信機／ガスもれ複合火災受信機FAPGJ/FCSGJ106N/S、連動操作盤SAPJ006、G型ガスもれ受信機AAPJ006 データベース設定説明書』(TN52079)	『データベース設定説明書』
『火災受信機／複合火災受信機FAPJ/FCSJ106Nシリーズ、ガスもれ火災受信機／ガスもれ複合火災受信機FAPGJ/FCSGJ106Nシリーズ 施工説明書』(TN52077)	『施工説明書』
『火災受信機／複合火災受信機かんたんガイド(FAPJ/FCSJ106N/Sシリーズ)』(TN52075) 『ガスもれ火災受信機／ガスもれ複合火災受信機かんたんガイド(FAPGJ/FCSGJ106N/Sシリーズ)』(TN52078)	『かんたんガイド』

本文中の機能名について

本書では、以下のように機能名を表記しています。

機能名	説明
音響停止	[この機器の音を止める]スイッチ操作で、本機からの音響を一時停止する機能
地区音響停止	[館内のベル音を止める]スイッチ操作で、本機に接続された館内のベル(地区ベル)などを、一時停止する機能
保守音響停止	保守点検を行うときに、本機の音響を連続停止する機能
保守異常音響停止	保守点検を行うときに、本機の異常音響を連続停止する機能
保守地区音響停止	保守点検を行うときに、本機に接続された館内のベル(地区ベル)などを連続停止する機能

安全上のご注意

ここに示した注意事項は、製品を安全にお使いいただき、お客様や他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。

ご使用になる前に、「安全上のご注意」をよくお読みの上、本機を正しくお使いください。

火災またはガスもれが発生したら



危険



強制・指示

ガスもれ検知器が作動したら、火を消してガスの元栓を閉めて自然換気をしてください。

- ・ ガス管損傷などによるガスもれの場合には、ガス会社に連絡してください。
- ・ 火気や静電気を発生する物を近づけたり、換気扇など電気機器のスイッチをON/OFFしたりすると、爆発の危険があります。自然換気をしてください。



危険



強制・指示

火災時やガスもれ時にLCD画面に表示される行動ガイドは、一般的な対応内容を示しています。

- ・ 建物ごとに管理・運用基準が定められている場合は、その基準を優先して行動してください。



警告



禁止

通常は保守音響停止、保守異常音響停止、保守地区音響停止にしないでください。

- ・ 火災時またはガスもれ時および異常時に警報音が出ないため、避難・消火活動および異常の発見が遅れるおそれがあります。

火災時やガスもれ時に保守音響停止、保守地区音響停止にしないでください。

- ・ 警報音が出ないため、避難・消火活動が遅れるおそれがあります。



注意



禁止

火災鎮火前またはガスもれ対処前に機器の復旧操作をしないでください。

- ・ 火災またはガスもれ状況の把握が困難になります。また、あわてて復旧操作をすると、現場調査に支障をきたすおそれがあります。

安全上のご注意

万一、異常が発生したら



警告



強制・指示

機器が故障したときは、すみやかに保守点検契約先に連絡してください。

- ・ 故障を放置すると正常に機能しません。



禁止

有資格者以外は本機内部に手を触れないでください。

- ・ 感電・故障のおそれがあります。



注意



強制・指示

非火災報が出た場合はその原因を確認してください。

- ・ 原因が不明の場合は保守点検契約先に点検を依頼してください。また、非火災報が出た場合に、電源を切ったり、音響停止スイッチを停止状態にしたままにすると、火災時に正常に動作せず被害を防止できなくなります。

本機や付属設備の設置、取り扱いについて



警告



禁止

通常は音響、地区音響(地区ベル)を停止しないでください。

- ・ 火災時またはガスもれ時に警報音が出ないため、避難・消火活動が遅れるおそれがあります。

防火扉、防火シャッターなどの近くに物を置かないでください。

- ・ 火災時またはガスもれ時に所定の機能を発揮できず、被害が拡大するおそれがあります。



強制・指示

防排煙設備や関連設備の作動信号は、関連する装置や制御盤などから受信した作動信号です。実際に作動しているかは、各装置や制御盤および現地で確認してください。

- ・ 所定の機能を発揮していないと被害が拡大するおそれがあります。



注意



強制・指示

「スイッチ注意」灯が消灯していることを確認してください。

- ・ 「スイッチ注意」灯が点滅している場合、いずれかのスイッチ灯が点灯しています。点灯しているスイッチを確認し、スイッチを押して消灯させてください。スイッチを元に戻さない場合、緊急時に正常に機能しません。

安全上のご注意

本機や発信機のまわりに物を置かないでください。

- ・ 緊急時の操作に支障をきたします。

感知器の周囲で多量の煙、蒸気または高熱を発する物を使用しないでください。

- ・ 非火災報(調理、たばこなどによる煙や熱により、火災でない場合でも煙濃度や温度が感知器の感知レベルに達した場合に作動すること)の原因となります。



禁止

感知器に物をぶつかけたり、取り外したりしないでください。

- ・ 非火災報や失報(感知器の設置箇所が不適切であったり、感知器の故障などが原因で、火災を有効に感知しないこと)の原因となります。

ガスもれ検知器の下で多量のガスを発する物を使用しないでください。

- ・ 誤報(殺虫スプレーなどによるガスにより、ガスもれでない場合でもガス濃度がガスもれ検知器の検知レベルに達した場合に作動すること)の原因となります。

ガスもれ検知器に物をぶつかけたり、取り外したりしないでください。

- ・ 失報(ガスもれ検知器の設置箇所が不適切であったり、ガスもれ検知器の故障などが原因で、ガスもれを有効に検知しないこと)の原因となります。

機器は必ず手もしくはそれに相当するもので操作してください。

- ・ 手もしくはそれに相当するもの以外では確実な操作ができず、機器を破壊するおそれがあります。



強制・指示

各機器の正しい取り扱いを理解し、緊急時の使用に備えてください。

- ・ 緊急時の対応が容易になります。

本防災システムは法の定めるところに従って、必ず定期点検を実施してください。

- ・ この定期点検を怠ると火災時に正常に機能しないおそれがあり、その責任を問われることがあります。

予備電源について



警告



強制・指示

予備電源が接続されているか確認してください。

- ・ 接続されていない場合、停電時に機能しません。



禁止

予備電源の接続は、+/-を絶対に間違わないようにしてください。

- ・ 間違えた場合、予備電源を発熱・破裂させる原因になります。



注意



強制・指示

予備電源を取り付けるときなど、電極をショートさせないように注意してください。

- ・ 火傷のおそれがあります。

保守点検について

ここでは、保守点検のきまりや、保守点検者の資格について説明しています。

定期点検のきまり

自動火災報知設備は、非常時に正しく動作させるために、定期的な保守点検が必要です。消防法では、防火対象物の関係者(建物の所有者、管理者または占有者)に対して、定期的な保守点検の実施およびその結果を報告するように定めています。



警告



強制・指示

連動している設備の内容を十分に確認して操作してください。

- ・ 不用意な操作は機器類に損害を与え、人に危害を与えるおそれがあります。



禁止

有資格者以外の人、本機や付属設備などの分解や修理をしないでください。

- ・ 故障の原因になります。



注意



強制・指示

定期交換が必要な部品は、指定期間で交換してください。

- ・ 指定期間で交換しない場合、正常に機能しなくなります。

なお、消防法によって定められている自動火災報知設備の定期点検と報告の概要を以下に示します。

定期点検について

定期点検の種類	定期点検の期間
機器点検	6か月
総合点検	1年



Caution

保守点検の結果は、維持台帳に記録して保管し、期間ごとに所轄の消防署に報告しなければなりません。期間については、下記の『結果報告』を参照してください。

結果報告

防火対象物の種類	報告期間
特定防火対象物	1年に1回
特定防火対象物以外のもの	3年に1回

保守点検する会社について

自動火災報知設備の保守点検には、専門的な知識と技術を必要とするために、消防法では資格制度を設けて、点検有資格者を定めています。保守点検契約先と契約を結び、有資格者(甲種四類消防設備士、乙種四類消防設備士、第二種消防設備点検資格者)による保守点検を実施してください。

音響の種類

本機の火災や異常などを知らせる音響は、警報の種類をわかりやすくするために電子音に音声を加えたものになっています。音響が鳴ったときは、どのような状態にあるかを確認してください。

音響(電子音/音声)	音響名	状態
ピー/火災発生、現場を確認してください	火災音響	火災時
ピッピッピッピッピッピッピッピッ/ガスもれ発生、現場を確認してください ^{※1}	ガスもれ音響	ガスもれ時
ピンポーン	蓄積音響/遅延音響 ^{※1}	蓄積時/遅延時 ^{※1}
ブー ブー/異常が発生しました	異常音響	異常時
ブー/端末装置が作動しました、現場を確認してください	端末作動音響	端末作動時
ブー/連動用感知器が発報しました、現場を確認してください ^{※2}	連動用感知器作動音響	連動用感知器作動時
ブッ(10秒に1回)	予備電源作動音響	予備電源作動時
ブッ(約1分に1回)	保守地区音響停止音響	保守地区音響停止時
プルルル/電話です	電話呼び出し音響	電話呼び出し時 (発信機や表示機から本機を呼び出す場合)

※1：ガスもれ機能付の場合のみ。

※2：複合火災受信機の場合のみ。

また、本機以外で以下のような音響があります。

● 地区音響(地区ベル)

火災時に地区音響装置が鳴らす音響。

● 表示機の音響

警報発生時に表示機が鳴らす音響。音響を停止するまで「ピー」などの音が鳴り続けます。



Point

本機のデータベース設定により、音響が以下のように設定されている場合があります。

- ・音声なしの警報音
- ・端末作動時に端末作動音響が鳴らない(回線による)
- ・蓄積音響が鳴らない(回線による)
- ・遅延音響が鳴らない(回線による)

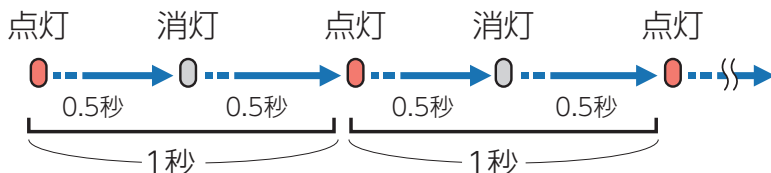
点滅周期について

ここでは、本機の各部のLEDの点滅周期について示します。

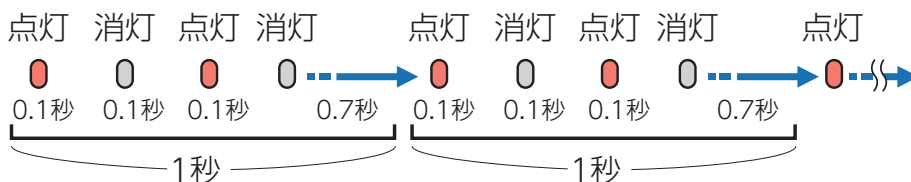
点滅周期

各点滅のイメージ図を以下に示します。

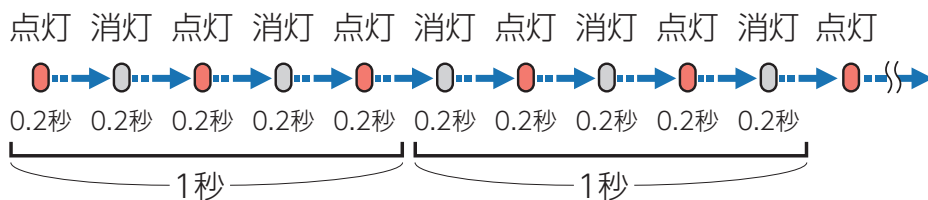
● 1秒間に1回点滅



● 1秒間に2回点滅



● 2秒間に5回点滅(高速点滅)



地区灯

防排煙設備の地区灯(複合火災受信機の場合のみ)

〈連動起動の場合〉

連動用感知器の作動時	1秒間に2回点滅
防排煙設備の起動制御時	2秒間に5回点滅(高速点滅)
防排煙設備の作動信号の受信時	点灯

〈防排煙起動スイッチ操作による起動の場合〉

防排煙設備の起動制御時	2秒間に5回点滅(高速点滅)
防排煙設備の作動信号の受信時	点灯



Point

防排煙設備の復帰出力時には、地区灯は点滅しません。

復帰出力後、「復旧」スイッチを押さずに別の回線を復帰させると、すでに復帰出力中の回線番号がLCD画面に高速点滅で表示されます。

点滅周期について

補助灯

● 「異常」灯

異常時	2秒間に5回点滅(高速点滅)
-----	----------------

● 「電話」灯

発信機または表示機からの 電話呼び出し中	2秒間に5回点滅(高速点滅)
受信機の電話ジャックに 電話プラグを差し込み時	1秒間に1回点滅

● 「蓄積中」灯

感知器の作動から約10秒間	点灯
点滅開始から最大約50秒間	1秒間に1回点滅

スイッチ灯

● 「この機器の音を止める」スイッチ灯

音響鳴動時	2秒間に5回点滅(高速点滅)
-------	----------------

● 「この機器の音を止める／連続停止」灯

保守音響停止中	1秒間に1回点滅
---------	----------

● 「館内のベル音を止める／連続停止」灯

保守地区音響停止中	1秒間に1回点滅
-----------	----------

「寿命部品」の定期交換について

ここでは、寿命部品の定期交換について説明しています。

「寿命部品」定期交換のお願い

本システムを適正に維持するためには、法で定める定期点検とともに、寿命部品の定期交換が必要です。本システムに使用している電気部品は、設置後の時間経過とともに劣化・磨耗していきます。システムを更新するまで本機を適正に維持管理するためには、故障が発生した時点ではなく、予防保全の観点から定期的に寿命部品の交換(有償)をしていただきますようお願い申し上げます。



注意



強制・指示

- ・ 定期交換推奨年数はこの間の電気部品および本システムの機能・性能を保証するものではありません。
- ・ 定期交換推奨年数は取扱説明書どおりに使用し、良好な環境で使用した場合の推奨値です。
- ・ 寿命部品以外の電気部品についても、経過年数変化により劣化・故障は発生します。
- ・ 寿命部品の交換を行う場合は、仕様や取り付け方法、設定方法に指定があります。保守点検契約先にご用命ください。
- ・ 寿命部品のモデルチェンジや生産中止によっては、代替品を用いることがあります。代替品の互換性によっては、対応するための加工などが必要になることがあります。
- ・ 設置後年数が経つと、部品の生産中止が多くなり、寿命部品を含めた電気・電子部品の供給ができなくなることがあります。この場合には、システムの更新(リニューアル)が必要となります。

寿命部品および定期交換推奨年数

寿命部品および定期交換推奨年数を以下に示します。

部品名	定期交換推奨年数
蓄電池(予備電源)	5年

運用管理編

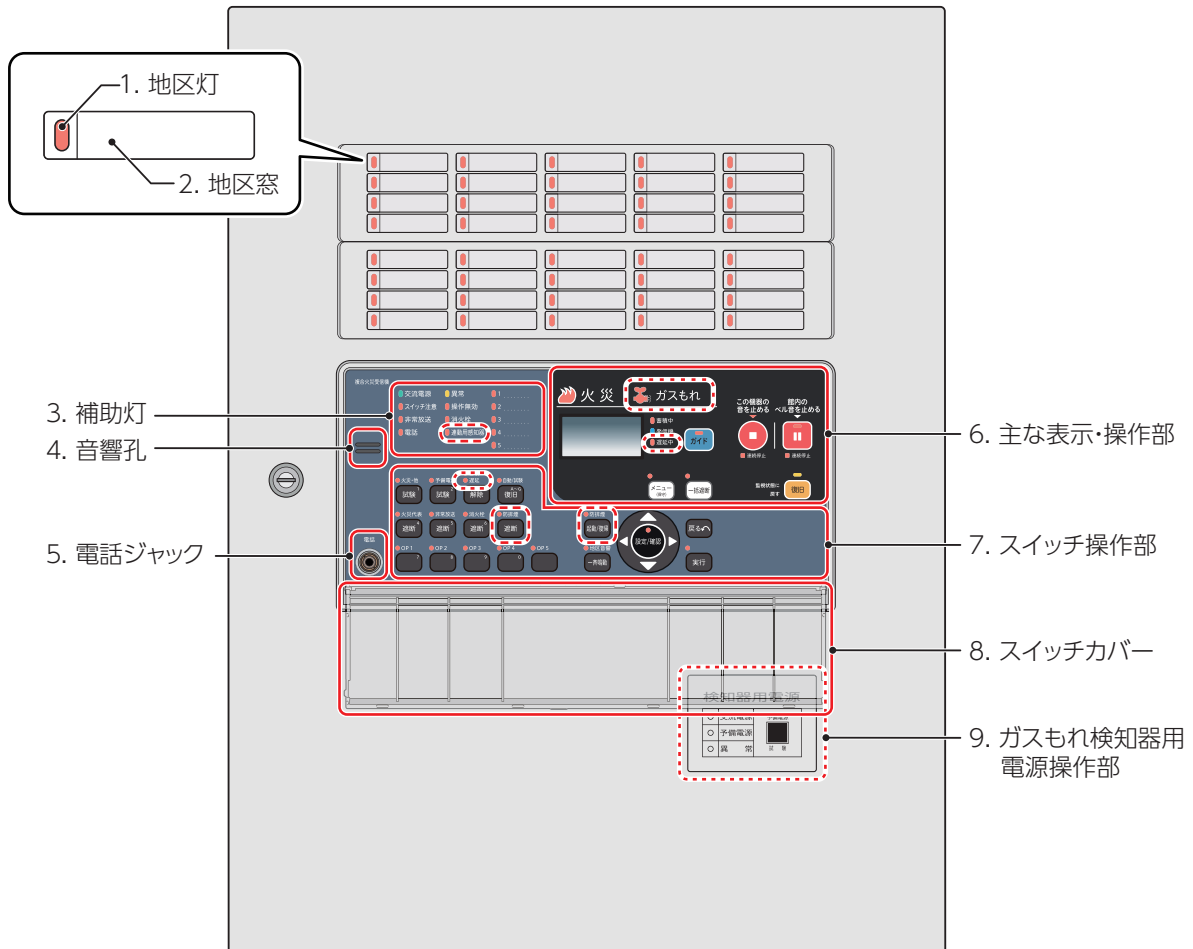
目次

1	各部の名称と機能	16
	本体(全体図)の名称と機能(スイッチカバーを開けた状態)	16
	補助灯の名称と機能	18
	スイッチ操作部の名称と機能	19
	ガスもれ検知器用電源操作部の名称と機能	21
	メニュー画面	22
	イベント発生画面	23
2	運用の流れ	25
3	平常時の監視状態	26
4	火災信号を受信したら	28
5	火災警報を発したら	29
	本機の動作と操作	29
	火災音響、地区音響(地区ベル)を停止するには	31
	付属設備の動作と操作	32
6	火災が鎮火したら	37
	本機の復旧操作	37
	付属設備の復旧操作	39
7	ガスもれ信号を受信したら(ガスもれ機能付の場合)	40
8	ガスもれ警報を発したら(ガスもれ機能付の場合)	41
	本機の動作と操作	41
	ガスもれ音響を停止するには	43
	付属設備の動作と操作	43
9	ガスもれの対処後は	45
	ガスもれ対処後の本機の復旧操作	45
10	異常警報を発したら	46
	本機の動作と操作	46
	異常警報一覧	47
	異常音響を停止するには	49
11	訓練モード	50

1 各部の名称と機能

ここでは、運用管理時に使用する本機各部の名称と機能について説明します。

本体(全体図)の名称と機能(スイッチカバーを開けた状態)



- : ガスもれ機能付の場合のみ存在します。
- : 複合火災受信機の場合のみ存在します。

1 地区灯(赤)

火災時、ガスもれ時、防排煙設備作動時に点灯して火災、ガスもれ、作動地区を知らせます。また、火災回線の断線、ガスもれ回線の断線時には、点滅して異常な地区を知らせます。防排煙回線の起動中は点滅して地区を知らせます。
なお、ガスもれ回線はガスもれ機能付の場合のみ、防排煙回線は複合火災受信機にのみ存在します。

2 地区窓

地区名称が入っています。火災回線は白色窓、防排煙回線は黄色窓、ガスもれ回線は橙色窓、諸警報回線は黄色窓または緑色窓などで表示されます。

3 補助灯

「スイッチ注意」灯、「電話」灯などの代表表示灯と諸表示灯がある部分です。

4 音響孔

本機の音響が鳴ります。

5 電話ジャック

発信機や表示機と電話連絡するときに、電話プラグを差し込んで使用します。

6 主な表示・操作部

警報時などに使用する主なスイッチや表示灯がある部分です。

7 スイッチ操作部

本機や付属設備などを制御するときのスイッチがある部分です。

8 スイッチカバー

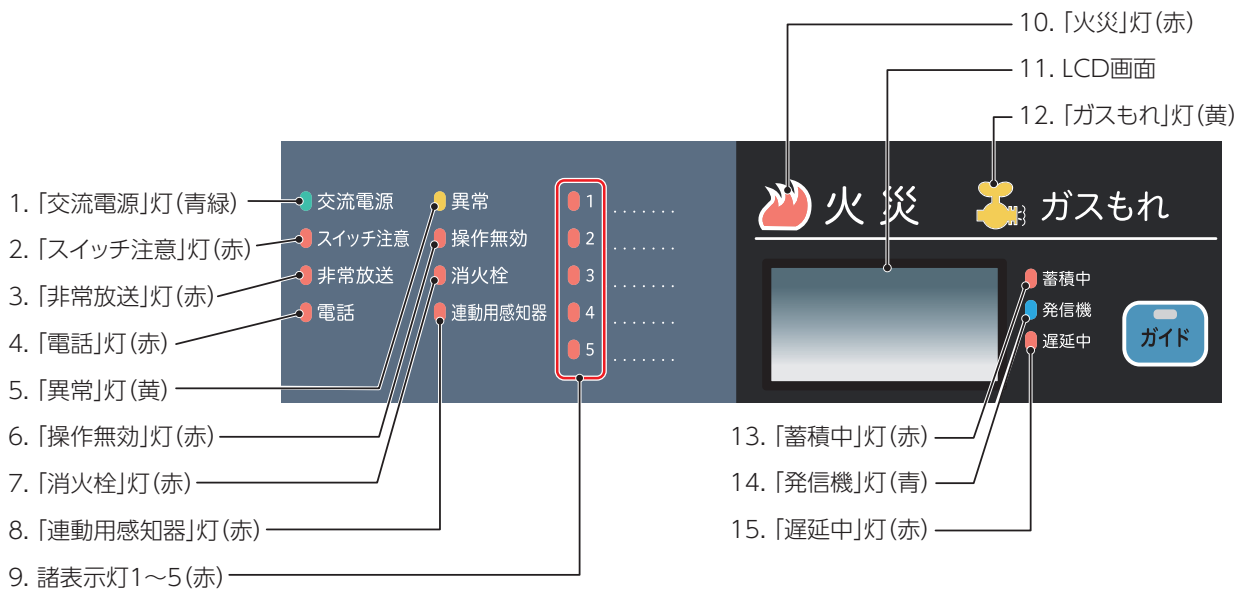
スイッチの誤操作などを防ぐ為のカバーです。

9 ガスもれ検知器用電源操作部(ガスもれ機能付の場合のみ)

ガスもれ検知器用電源の表示灯と試験スイッチがある部分です。

1 各部の名称と機能

補助灯の名称と機能



1 「交流電源」灯(青緑)

本機の交流電源が動作中に点灯し、予備電源が動作中(停電中)に点滅します。

2 「スイッチ注意」灯(赤)

本機のいずれかのスイッチが操作されると点滅します。

3 「非常放送」灯(赤)

非常放送中に点灯します。
点灯時は地区音響(地区ベル)が停止します。

4 「電話」灯(赤)

発信機、表示機から本機へ電話呼び出し中または、平常時に本機に受話プラグを差し込むと点滅します。
通話中は点灯します。

5 「異常」灯(黄)

異常時に点灯または点滅します。

6 「操作無効」灯(赤)

本機の操作無効機能を設定すると点滅します。

7 「消火栓」灯(赤)

消火栓始動器からの信号を受けると点滅します。

8 「連動用感知器」灯(赤)(複合火災受信機の場合のみ)

連動用感知器の作動中に点灯します。

9 諸表示灯1~5(赤)

諸表示回路に接続されている機器が作動すると点灯します。

10 「火災」灯(赤)

火災時に点滅します。

11 LCD画面

火災時、ガスもれ時、または異常時に回線やオプションメッセージ、発生イベントを表示します。

12 「ガスもれ」灯(黄)(ガスもれ機能付の場合のみ)

ガスもれ時に点滅します。

13 「蓄積中」灯(赤)

第1報目の火災信号を受信し、蓄積機能作動中に点灯または点滅します。

14 「発信機」灯(青)

発信機のボタンが押されると点灯します。

15 「遅延中」灯(赤)(ガスもれ機能付の場合のみ)

ガスもれ信号を受信し、ガスもれ遅延機能作動中に点灯します。

スイッチ操作部の名称と機能



それぞれのスイッチ上部にある状態灯を「○○○○」スイッチ灯と呼びます(○○○○にはスイッチ名が入ります)。

1 「ガイド」スイッチ

「ガイド」スイッチ灯(赤)の点滅時に、発生イベントの対応方法などが確認できます。

2 「館内のベル音を止める」スイッチ*

地区音響(地区ベル)を停止するときに使用します。

3 「この機器の音を止める」スイッチ

火災音響、ガスもれ音響、異常音響、および端末作動音響を停止するときに使用します。

4 「復旧」スイッチ

本機を火災復旧するときや、防排煙設備の起動または復帰操作をしたあとに使用します。ガスもれ警報を保持する設定にしている場合、ガスもれ復旧に使用します。

5 「一括遮断」スイッチ*

防排煙設備の連動(複合火災受信機の場合のみ)、消火栓ポンプの始動、非常放送への移報、火災代表の移報、およびオプションスイッチ(遮断)の遮断先への移報を一括で遮断するときに使用します。

6 「メニュー(保守)」スイッチ

メニュー画面の表示、操作無効機能を設定するときに使用します。

7 「戻る」スイッチ

画面をひとつ前に戻すときや、終了操作などに使用します。

8 「実行」スイッチ

各種メニュー操作の動作実行時などに使用します。
操作が有効なときに、スイッチ灯が点滅します。

9 「OP1～OP5」スイッチ*

オプション機能(遮断スイッチなど)として使用します。

10 「設定/確認」スイッチ

選択項目を決定するときに使用します。
操作が有効なときに、スイッチ灯が点滅します。

11 「△(上)」「▽(下)」「◀(左)」「▶(右)」スイッチ

項目選択や回線選択などに使用します。
火災などのイベント発生時は「◀(左)」「▶(右)」スイッチで後続送り操作が可能です。

12 「防排煙起動/復帰」スイッチ(複合火災受信機の場合のみ)*

防排煙設備(端末装置)を起動または復帰するときに使用します。

13 「地区音響一斉鳴動」スイッチ*

火災時に地区音響(地区ベル)を全館に鳴らすときに使用します。

※ 押してオン状態になると、「スイッチ注意」灯が点滅します。



注意



強制・指示

スイッチカバーは、操作後必ず閉じてください。
引っかけたけがをしったり誤操作の原因となります。



スイッチカバー



Point

スイッチ操作について

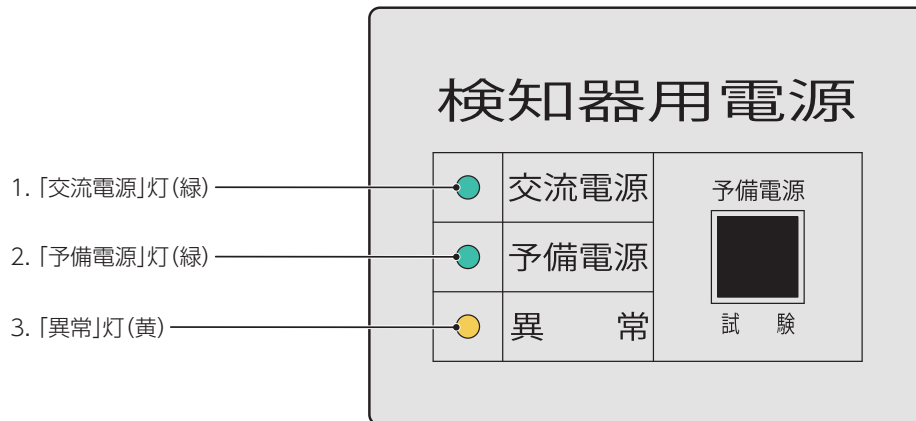
本機の操作スイッチはすべて押しボタンです。スイッチを押すと、スイッチ上部のスイッチ灯が点灯します。また、スイッチの機能説明で、※が付いているスイッチを押した場合は、「スイッチ注意」灯が点滅します。ただし、スイッチを押している間だけ操作が有効になるものについては、「スイッチ注意」灯は点滅しません。

スイッチ色について

主な用途を考慮し、音を止めるスイッチ(「この機器の音を止める」スイッチ、「館内のベル音を止める」スイッチ)は赤色、「復帰」スイッチはオレンジ色、「ガイド」スイッチは青色、その他のスイッチは地色に応じて白色または灰色になっています。



ガスもれ検知器用電源操作部の名称と機能

**1 「交流電源」灯(緑)**

ガスもれ検知器用電源の交流電源が動作中に点灯し、予備電源が動作中(停電中)に点滅します。

2 「予備電源」灯(緑)

予備電源で動作中(停電中)に点灯します。

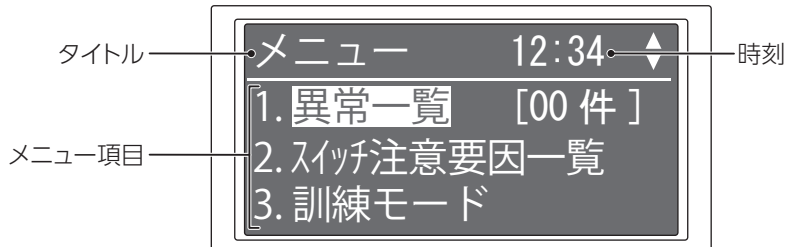
3 「異常」灯(黄)

ガスもれ検知器用電源の異常時に点灯します。

1 各部の名称と機能

メニュー画面

「メニュー(保守)」スイッチを押すと、メニュー画面が開きます。
メニュー画面に表示される項目を以下に示します。



■ メニュー項目一覧

メニュー項目	内容	参照
1.異常一覧	異常灯点滅の要因を確認できます。	p.47
2.スイッチ注意要因一覧	スイッチ注意灯点滅の要因を確認できます。	p.84
3.訓練モード	避難訓練の際に使用するモードです。	p.50
4.故障機器遮断	施工・点検専用の機能です。	p.57
5.日時設定	日時の設定が行えます。	p.85
6.履歴	操作履歴を確認・消去できます。	p.86
7.詳細メニュー	Webページへの案内表示など、下表に示す詳細メニューを表示します。	下表
8.施工点検モード	施工・点検専用の機能です。	p.81

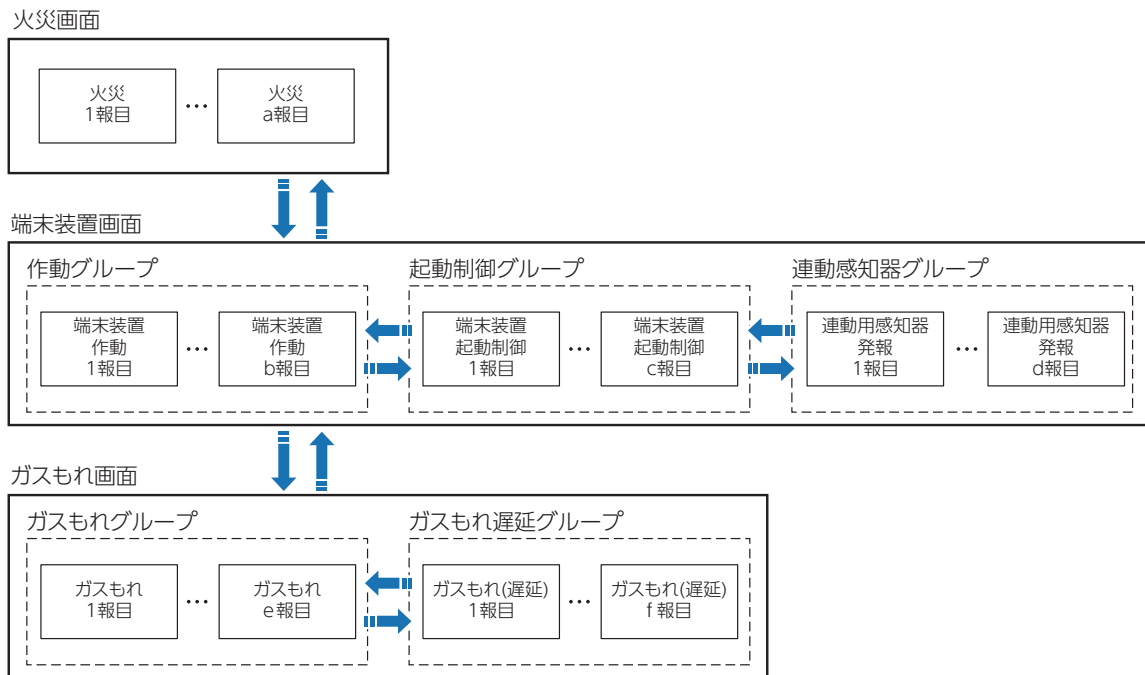
■ 詳細メニュー項目一覧

メニュー項目	内容	参照
1.メッセージ表示機遮断	施工・点検専用の機能です。	p.99
2.DB設定確認		p.100
3.説明書(二次元コード)	製品情報が記載されたWebページへ案内する二次元コードを表示します。	p.104

1 各部の名称と機能

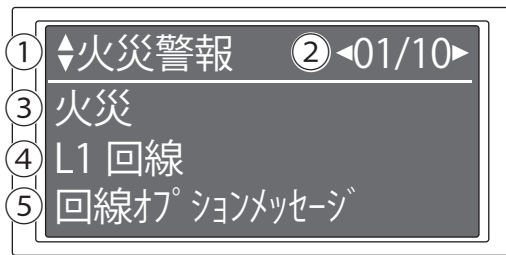
イベント発生画面

- ・ イベント画面は表示優先順に[火災][ガスもれ][端末装置]の種別画面に分かれます。
 - ・ 各種別画面ごとに最大25イベントまで表示可能です。
 - ・ [火災]画面は先頭(左)を1報目とし、後続イベントを右に追加します。
 - ・ [ガスもれ]画面は画面内で表示優先順に[ガスもれグループ][ガスもれ遅延グループ]に分かれており、グループ内の表示は先頭(左)を1報目として後続イベントを右に追加します。
 - ・ [端末装置]画面は画面内で表示優先順に[作動グループ][起動制御グループ][連動用感知器グループ]に分かれており、グループ内の表示は先頭(左)を1報目として後続イベントを右に追加します。
 - ・ [端末装置]画面において、同一回線で複数のイベントが発生した場合は、表示優先順位の高いグループのみに表示します。
- 例) D11 起動制御後に DA11 作動信号を受信した場合、D11 の表示は OFF にします。
- ・ [端末装置]画面、[ガスもれ]画面の表示数は、各グループの合計(下図の端末装置：b+c+d、ガスもれ：e+f)で最大25イベントです。
 - ・ 「▷(右)」スイッチで後続イベント、「◁(左)」スイッチで先行イベントへ遷移します。
 - ・ 「△(上)」「▽(下)」スイッチで異なる種別画面へ遷移^{※1}します。
- ※1：各画面の1報目(先頭)へ遷移します。



各画面において「ガイド」スイッチを押すとガイド画面に切り替わります。

イベント画面の表示内容



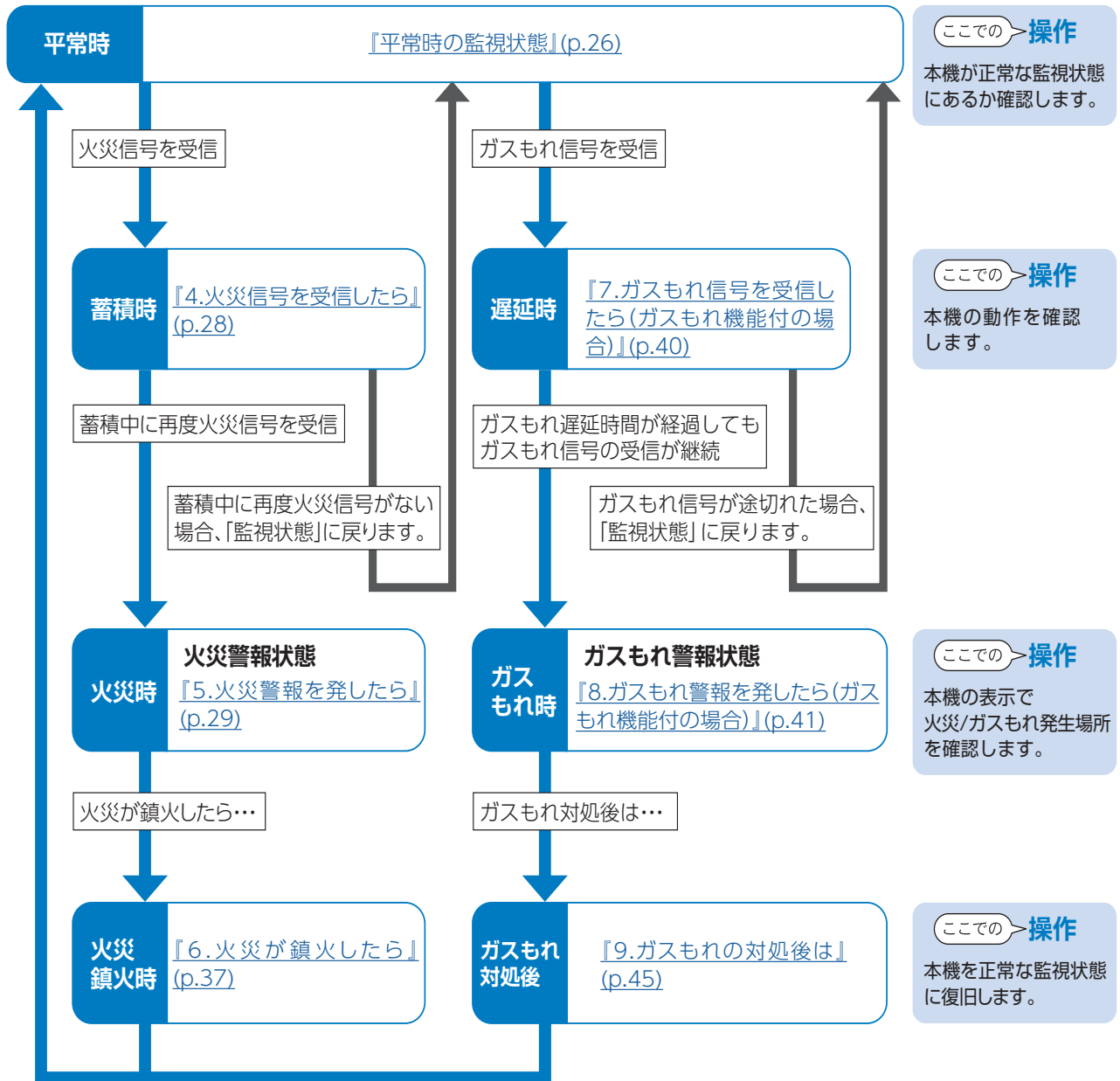
- ① 種別画面(火災警報、端末装置、ガスもれ警報)を表示^{※1}
- ② 同種別画面のイベント件数を表示^{※2}
- ③ 種別名称、状態を表示(データベースによる)
- ④ 回線を表示
- ⑤ 回線オプションメッセージ(データベースによる)

※1：複数種別画面がある場合は「△▽」マークが表示されるので、送り表示を行います。

※2：同種別画面のイベントが複数件ある場合は「◀▶」マークが表示されるので、送り表示を行います。

2 運用の流れ

ここでは、本機の運用の流れについて図示します。



その他、本機や付属設備に異常が発生した場合、本機は異常警報を発します。詳細については、[『10.異常警報を発したら』\(p.46\)](#)を参照してください。



電源を入れた直後の本機の動作について

「館内のベル音を止める」スイッチ、「一括遮断」スイッチが押された状態になり、各スイッチ灯が点灯します。

定期受信回路試験時の本機の動作について

本機では、定期的に定期受信回路試験が実施されます。試験の詳細や試験時の本機の動作については、[『4.定期受信回路試験』\(p.80\)](#)を参照してください。

なお、定期受信回路試験は、1週間に1回(月曜日のAM10時)に自動的に行われます。

3 平常時の監視状態



警告



強制・指示

本機が正常な監視状態にあるか、日頃から確認してください。

正常な監視状態にない場合は、火災時またはガスもれ時に正しく動作しません。



禁止

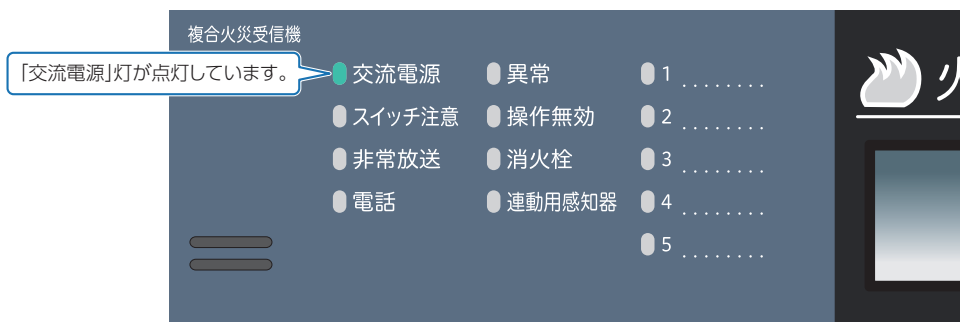
平常の監視時に、地区音響停止、保守音響停止、保守地区音響停止には絶対に設定しないでください。

音響停止に設定すると、火災時またはガスもれ時に警報音が出ないため、避難・消火活動が遅れるおそれがあります。

正常な監視状態の確認

平常時は、本機が以下の状態であることを確認してください。

また、停電時に備えて、予備電源が接続されていることも確認してください。



注意



強制・指示

「スイッチ注意」灯が消灯していることを確認してください。

「スイッチ注意」灯が点滅している場合、いずれかのスイッチ灯が点灯しています。点灯しているスイッチを確認し、スイッチを押して消灯させてください。スイッチを元に戻さないと、緊急時に正常に機能しない場合があります。



正常監視状態では、「ガイド」スイッチを押すと現在日時を表示します。



「4.故障機器遮断」がONになっている状態でもスイッチ注意灯が点滅します。故障機器遮断については、[『2.故障機器遮断』\(p.57\)](#)を参照してください。

停電のときは

停電時は、電源が自動的に内蔵の予備電源に切り替わり、「交流電源」灯が点滅します。また、10秒に1回の割合で予備電源作動音響が「ブツ」と鳴り、「この機器の音を止める」スイッチ灯が点滅します。「この機器の音を止める」スイッチを押すことで、10秒に1回の予備電源作動音響が停止します。



なお、予備電源電圧は徐々に低下しますが、回路電圧の異常を検知する前に復電した場合は、正常な監視状態に戻ります。



停電状態が続いた場合

予備電源電圧が約19V以下に低下すると、LCD画面の[異常一覧]に[回路電圧異常]と表示され、異常音響が鳴ります。その後、受信機の機能が停止します。機能停止後に復電すると、「館内のベル音を止める」スイッチ、「一括遮断」スイッチが押された状態になり、各スイッチ灯が点灯します。警報が発生していないことを確認後、各スイッチを押して正常な監視状態（「交流電源」灯のみ点灯）にしてください。

ガスもれ検知器用電源の場合

ガスもれ検知器用電源操作部の「交流電源」灯が消灯し、「予備電源」灯が点灯します。なお、停電状態が続いた際、受信機の機能が停止する前にガスもれ検知器用電源の予備電源が放電した場合には、LCD画面に「ガスもれ検知器異常」が表示され、異常音響が鳴ります。

4 火災信号を受信したら

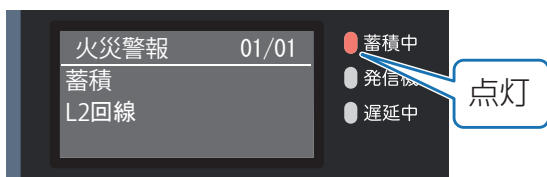
感知器が作動し、本機が火災信号を受信した場合、蓄積機能が作動します。本機の動作を確認し、次の動作を待ちます。



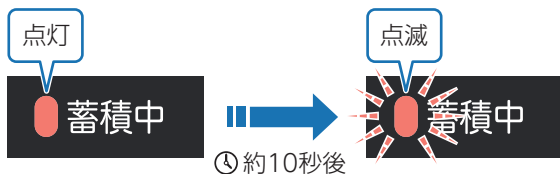
蓄積機能とは

調理、排気、たばこなど、一過性の熱や煙によって感知器が作動してしまうことによる非火災警報を防ぐ機能です。火災警報の信頼性を高めるために、感知器からの作動信号を受けてから一定時間内に再び作動信号を受信したときに火災警報を発します。ただし、発信機ボタンが押された場合は、蓄積機能は作動せず、ただちに火災警報を発します。

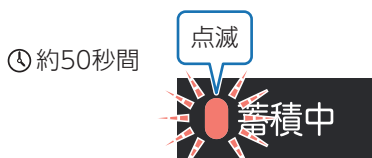
蓄積機能作動中に本機は以下のように動作します。



「ピンポン」と音響が鳴り、「蓄積中」灯が点灯し、LCD画面に「蓄積」の文字と感知器が作動した回線を表示します。^{※1}



「蓄積中」灯が約10秒間点灯の状態、感知器が自動的に復旧され、点滅に切り替わります。



「蓄積中」灯が点滅の状態、再度火災信号が送られてくるのを約50秒間待機します。

※1：オプションメッセージが設定されている場合、オプションメッセージが表示されます。

■ 火災の場合(蓄積中(「蓄積中」灯が点滅中)に再度、火災信号を受信した場合)

実火災と判断し、火災警報を発します。火災時の本機の動作および対処については、[『5.火災警報を発したら』\(p.29\)](#)を参照してください。

■ 非火災の場合(蓄積中(「蓄積中」灯が点滅中)に再度、火災信号がなかった場合)

「蓄積中」灯が消灯し、監視状態に戻ります。平常時の監視状態については、[『3.平常時の監視状態』\(p.26\)](#)を参照してください。

履歴を確認する場合は[『3.履歴リストについて』\(p.86\)](#)を参照してください。



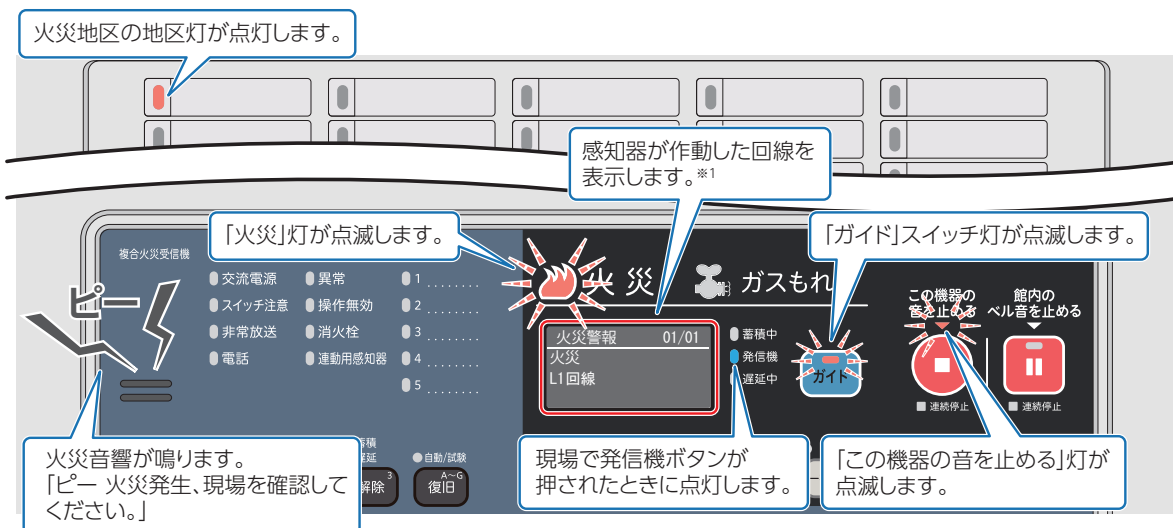
- 蓄積機能が解除されている場合、蓄積機能は作動せず、火災信号を受信後、ただちに火災警報を発します。
- 一度本機が火災警報を発すると、復旧するまでの間に受信した火災信号では、蓄積機能は作動せず火災警報を発します。

5 火災警報を発したら

火災時は、火災音響と各階の地区音響(地区ベル)が鳴り、本機と付属設備(『付属設備の動作と操作』(p.32)参照)は以下のように動作します。落ち着いて対処してください。

本機の動作と操作

ここでは、火災時の本機の動作と、それともなう操作について説明しています。



※1：オプションメッセージ設定がされている場合、オプションメッセージが表示されます。



また、火災発生と同時に警備会社、エレベータなどの関連設備、および付属設備(表示機、非常放送、防排煙設備など)に火災信号が移報されます。



Point

火災発生時は「ガイド」スイッチ灯が点滅し、「ガイド」スイッチを押すことで行動ガイドが表示されます。

5 火災警報を発したら

火災時の行動

火災時の一般的な行動を以下に示します。

- 1 本機の表示を見て、火災地区を確認します。
- 2 火災発生場所の確認、初期消火、避難誘導、および消防署(119番)への通報などを行います。

火災警報が複数発生している場合

火災警報が複数発生している場合は、LCD画面右上の件数表示の左右に「◀」「▶」が表示されます。

操作

- 1 以下のスイッチを押して、発報した順に火災警報を確認できます(後続送り操作)。
最大25イベントまで確認できます。

- 「▶(右)」スイッチ

現表示の次に発報した回線が表示されます。

最終発報を表示した状態でスイッチを押すと、第1報表示状態に戻ります。

- 「◀(左)」スイッチ

現表示の前に発報した回線が表示されます。

第1報を表示した状態でスイッチを押すと、最終発報の状態が表示されます。



Caution

非火災報だったときは

現場を十分に確認した上で、本機を復旧して平常の監視状態に戻してください。復旧操作については、[『6.火災が鎮火したら』\(p.37\)](#)を参照してください。

火災音響鳴動中の電話呼び出しについて

火災時は、常に火災音響が優先されます。そのため発信機、表示機からの電話呼び出し音響は鳴らず、「電話」灯の点滅だけになります。

5 火災警報を発したら

火災音響、地区音響(地区ベル)を停止するには

状況によって火災音響や地区音響(地区ベル)を停止しなければならない場合は、以下の操作で停止できます。



警告



強制・指示

火災時に保守音響停止、保守地区音響停止にしないでください。

警報音が出なくなるため、避難・消火活動が遅れるおそれがあります。

火災音響を停止するには



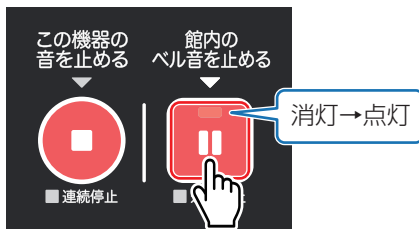
操作

1

「この機器の音を止める」スイッチを押します。

火災音響が停止し、点滅していた「この機器の音を止める」スイッチ灯が消灯します。

地区音響(地区ベル)を停止するには



操作

1

「館内のベル音を止める」スイッチを押します。

地区音響(地区ベル)がすべて停止します。「館内のベル音を止める」スイッチ灯が点灯し、「スイッチ注意」灯が点滅します。



Point

- 一度火災音響を停止しても、他の回線から火災警報があると、再度火災音響が鳴ります。
- 一度地区音響を停止しても、一定時間経過したり、他の回線から火災警報があると、再度地区音響が鳴ります。

5 火災警報を発したら



地区音響(地区ベル)の逐次鳴動と拡大警報^{*1}について

火災発生時に地区音響(地区ベル)停止を自動的に解除する時間を逐次鳴動時間、全館一斉鳴動に移行する時間を拡大警報時間といいます。

なお、逐次鳴動時間は「2、3、4、5、6、7、8」分、拡大警報時間は「なし、4、5、6、7、8、9、10」分のいずれかにデータベースで設定されています。以下は、逐次鳴動時間が3分、拡大警報時間が4分に設定されている場合(初期状態)の動作です。

- 地区音響(地区ベル)を停止しても、約3分(逐次鳴動時間)経過すると再度地区音響(地区ベル)が鳴ります。
- あらかじめ地区音響(地区ベル)を停止しておいても、火災発生後、約3分(逐次鳴動時間)経過すると地区音響(地区ベル)が鳴動します。
- 一度地区音響(地区ベル)を停止しても、2地区以上で火災が発生した場合、または発信機ボタンが押された場合は、地区音響(地区ベル)停止を解除して全館一斉(拡大)鳴動に移行します。
- 火災発生後、約4分(拡大警報時間)経過すると地区音響(地区ベル)は全館一斉(拡大)鳴動に移行します。なお、地区音響(地区ベル)停止中に約4分(拡大警報時間)経過した場合は、逐次鳴動時間が経過したあとで全館一斉(拡大)鳴動に移行します。
- 全館一斉鳴動に移行すると、「地区音響一斉鳴動」スイッチ灯が点灯します。

※1：拡大警報は区分鳴動方式の場合です。

付属設備の動作と操作

ここでは、火災時の付属設備の動作と、それにとまなう操作について説明しています。接続されている付属設備をあらかじめ確認しておいてください。

付属設備	内容	ページ
地区音響装置	〈地区音響(地区ベル)が鳴る範囲〉	p.33
	〈火災時にすべての階の地区音響(地区ベル)を鳴らすには(区分鳴動方式の場合)〉	p.33
防排煙設備(複合火災受信機の場合のみ)	〈防排煙設備を防排煙起動スイッチ操作で起動するには〉	p.34
消火栓ポンプ制御機器	〈消火栓ポンプの始動〉	p.35
消火装置、その他の設備	〈端末作動音響を停止するには〉	p.35
表示機	〈表示機の音響を停止するには〉	p.36
	〈表示機から本機を電話呼び出しするには〉	p.36
非常放送設備	〈非常放送設備への連動移報〉	p.36
	〈非常放送灯について〉	p.36

5 火災警報を発したら

地区音響装置

〈地区音響(地区ベル)が鳴る範囲〉

地区音響区分鳴動方式で、地上階で出火した場合は、出火階とその直上階で地区音響(地区ベル)が鳴り、地下階の出火時は、地下全域および1階の地区音響(地区ベル)が鳴ります。



- ・ 地区音響(地区ベル)が鳴る範囲は、本機のデータベースで設定されます。
- ・ 区分鳴動方式でない場合は全館一斉鳴動となります。

〈火災時にすべての階の地区音響(地区ベル)を鳴らすには(区分鳴動方式の場合)〉



操作

- 1 「地区音響一斉鳴動」スイッチを押します。
すべての階の地区音響(地区ベル)が鳴ります。
「地区音響一斉鳴動」スイッチ灯が点灯し、「スイッチ注意」灯が点滅します。



以下の要因で全館一斉(拡大)鳴動に移行した場合、「地区音響一斉鳴動」スイッチ灯は点灯したままで、「スイッチ注意」灯が消灯します。

- 拡大警報時間が経過した場合
- 2地区以上で火災が発生した場合
- 発信機ボタンが押された場合

防排煙設備 (複合火災受信機の場合のみ)



警告



禁止

防火扉、防火シャッターなどの近くに物を置かないでください。

火災時に所定の機能を発揮できず、被害が拡大するおそれがあります。

・ 防排煙設備の起動(制御)

連動用感知器が作動すると地区灯が点滅し、LCD画面に回線を表示します。オプションメッセージが設定されている場合は、オプションメッセージも表示されます。

また、「連動用感知器」灯が点灯し、連動用感知器作動音響が鳴り、防排煙設備が起動します。

連動用感知器と防排煙設備の回線が分かれている場合は、起動した防排煙設備の地区灯も点滅します。

5 火災警報を発したら

・防排煙設備の作動

作動信号を受信すると、地区灯が点滅から点灯に変わります。
また、端末作動音響が鳴ります。

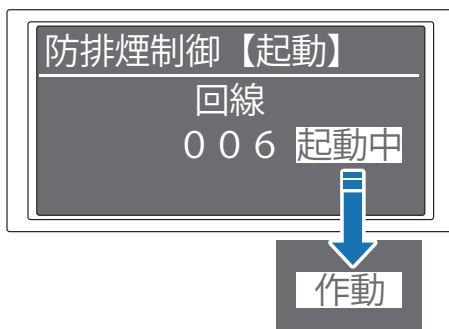


Point

防排煙設備の作動信号とは

防排煙設備の作動信号とは、関連する装置から受信した作動信号です。
たとえば防火扉を設置している場合、平常時はフック(自動閉鎖装置)で扉が保持されており、連動用感知器が作動するとフックが解除され、防火扉の自重によって作動しますが、本機ではフックが解除された信号を作動信号とみなします。
防火扉の近くに物が置かれていた場合、防火扉の閉鎖の妨げとなり、作動信号を受信していても防火扉が完全に閉鎖しないおそれがあります。

〈防排煙設備を防排煙起動スイッチ操作で起動するには〉



操作

1

「防排煙起動/復帰」スイッチを押します。

「防排煙起動/復帰」スイッチ灯が点灯し、LCD画面に防排煙回線番号が表示されます。「スイッチ注意」灯が点滅します。

2

「△(上)」「▽(下)」「◀(左)」「▶(右)」スイッチを押して起動回線を選択します。

3

「実行」スイッチを押します。

LCD画面に[起動中]と表示され、選択した回線の防排煙設備が起動し、地区灯が点滅します。また、「復帰」スイッチ灯が点滅します。作動信号を受信すると、LCD画面に[作動]と表示され、地区灯が点滅から点灯に変わります。また、端末作動音響が鳴ります。端末作動音響を停止する場合は、「この機器の音を止める」スイッチを押します。

『〈端末作動音響を停止するには〉』(p.35)を参照してください。



Point

- ・ 起動中の防排煙機器を復帰する場合は、『〈防排煙設備を遠隔復帰するには〉』(p.39)を参照してください。
- ・ 本機のデータベース設定で、回線によって端末作動音響が鳴らないように設定されている場合があります。

5 火災警報を発したら

消火栓ポンプ制御機器（消火栓連動回路）

〈消火栓ポンプの始動〉

現場で発信機ボタンが押された場合、または消火栓バルブの作動信号を受信した場合、消火栓ポンプ制御機器に信号を送り、自動的にポンプを始動させます。

消火栓始動器から始動信号を受信すると、「消火栓」灯が点滅し、端末作動音響が鳴ります。



Point

消火栓ポンプ制御機器を始動するには、本機のデータベース設定で消火栓の連動要因を設定する必要があります。

消火装置、その他の設備

消火装置やその他の設備の作動信号を受信すると、消火栓灯が点滅、または作動した地区の地区灯が点灯し、端末作動音響が鳴ります。

〈端末作動音響を停止するには〉



操作

1

「この機器の音を止める」スイッチを押します。

端末作動音響が停止します。



Point

本機のデータベース設定で、回線によって端末作動音響が鳴らないように設定されている場合があります。また、データベース設定で、消火栓の音響が鳴らないように設定されている場合があります。

表示機

本機から表示機へ火災信号などが送られると、表示機は以下のとおり動作します。

・地区窓表示機

地区灯が点灯し、音響が鳴動します。

・メッセージ表示機

LCD画面に回線番号、種別名称^{※1}、状態文字^{※1}、オプションメッセージ^{※1}を表示し、音響が鳴動します。

※1：データベースの設定内容によります。



Point

火災警報時に表示機を動作させるには、本機のデータベース設定で表示機に関する設定をする必要があります。

5 火災警報を発したら

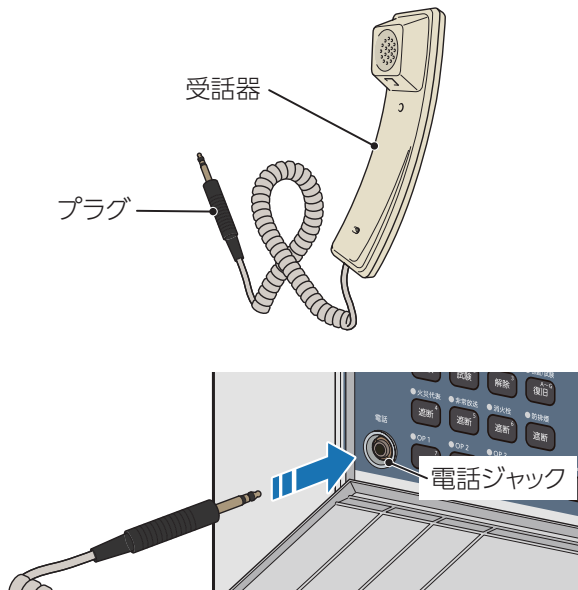
〈表示機の音響を停止するには〉

表示機の「この機器の音を止める」スイッチ※¹を押します。

表示機の音響が停止し、スイッチ灯が点灯します。

※1：表示機の型式によってスイッチの名称は異なります。

〈表示機から本機を電話呼び出しするには〉



操作

1

表示機側で受話器のプラグを電話ジャックに差し込みます。

本機の電話呼び出し音響が鳴り、呼び出します。

2

本機側で別の受話器のプラグを電話ジャックに差し込みます。

通話ができるようになります。

非常放送設備

〈非常放送設備への連動移報〉

移報出力(Fn)を階別、地区別(ブロック別)などに設定し、非常放送設備に階別火災信号と火災確認信号を移報します。非常放送設備は信号を受信して非常放送を行います。

感知器発報の放送

非常放送設備が階別火災信号を受信した場合に放送されます。

火災放送

以下の要因で火災確認信号を受信した場合に放送されます。

- 2地区以上で火災が発生した場合
- 発信機ボタンが押された場合

最初の火災警報から一定時間(2分から5分。非常放送設備側の設定によって異なります)経過した場合も放送されます。

〈非常放送灯について〉

非常放送と地区音響装置を併設している場合、非常放送灯が点灯しているときに地区音響(地区ベル)が停止します。

点灯

- 交流電源
- スイッチ注意
- 非常放送
- 電話

6 火災が鎮火したら

火災鎮火後は、本機や付属設備を正常な監視状態に復旧させてください。



注意



禁止

火災鎮火前に機器の復旧操作を行わないでください。

火災状況の把握が困難になります。また、あわてて復旧操作をすると、現場調査に支障をきたすおそれがあります。



Caution

まずは発信機の復旧を!

発信機ボタンが押された場合、「発信機」灯が点灯します。
「発信機」灯が点灯している場合、現場で発信機を先に復旧してください。
発信機を復旧する前に本機の「復旧」スイッチを押すと、再度火災警報を発します。

本機の復旧操作

ここでは、火災鎮火後に行う本機の復旧操作について説明しています。

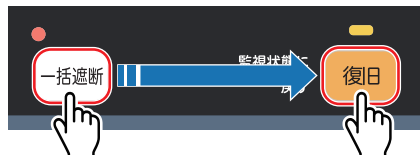


Point

■ 端末装置が作動した場合、またはその他の設備へ火災信号などを移報した場合

「一括遮断」スイッチを押して、作動した消火ポンプや防排煙設備などの端末装置、またはその他の設備への移報を遮断します。

そのあと、復旧操作（「復旧」スイッチを押す）を行い、作動した端末装置を元に戻してください。



■ 端末装置またはその他の設備を防排煙起動/復帰スイッチ操作で起動した場合

「復旧」スイッチを押して、作動した消火ポンプや防排煙設備などの端末装置、またはその他の設備への起動(制御)を遮断します。

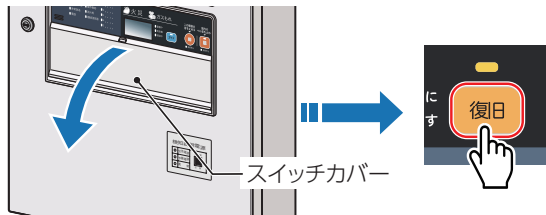
そのあと、「戻る」スイッチまたは「防排煙起動/復帰」スイッチを押し、「防排煙起動/復帰」スイッチ灯が消灯したことを確認してください。



■ 遠隔復帰に対応した防排煙設備を起動した場合

詳細は、『[防排煙設備を遠隔復帰するには](#)』(p.39)を参照してください。

6 火災が鎮火したら



操作 1

スイッチカバーを開き、「復旧」スイッチを押します。

2

復旧後、点滅または点灯中の地区灯がないこと、LCD画面に何も表示されていないことを確認します。

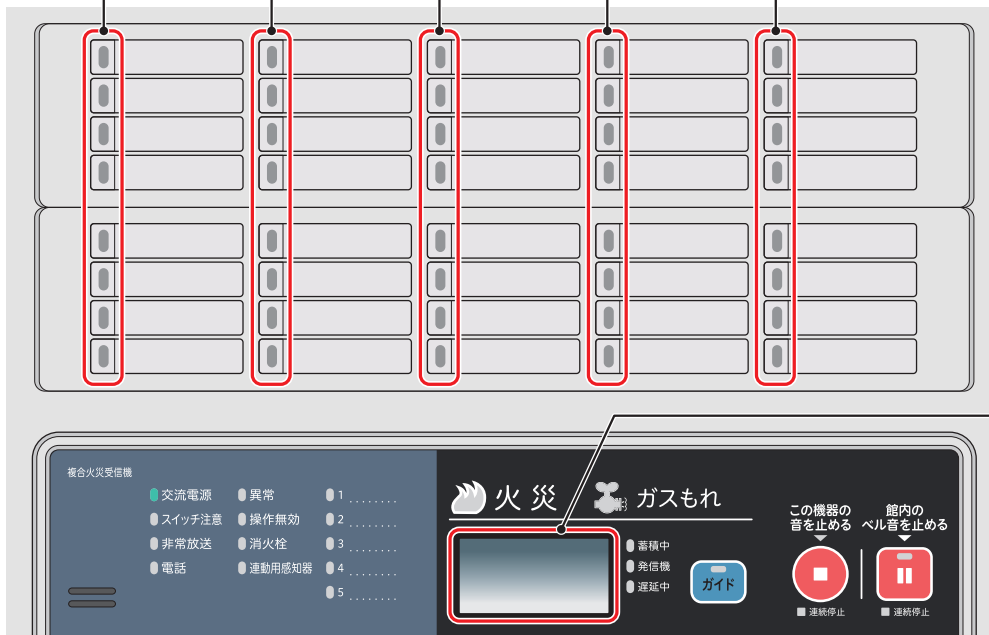
また、一括遮断などのスイッチ操作を行った場合は、再度スイッチを操作して、正常な監視状態に戻してください。

3

本機が正常な監視状態であることを確認します。

正常な監視状態については、『[正常な監視状態の確認](#)』(p.26)を参照してください。

地区灯



注意



強制・指示

スイッチカバーは、操作後必ず閉じてください。

引っかけやけがをしたり、誤操作の原因となります。

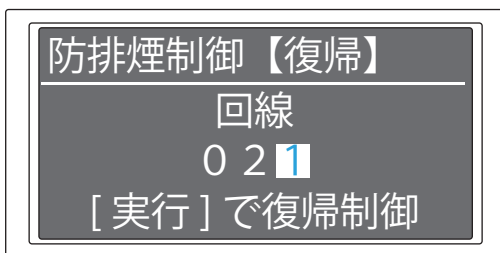
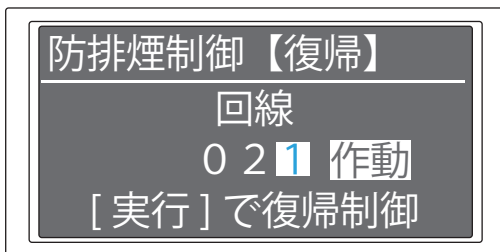
6 火災が鎮火したら

付属設備の復旧操作

火災鎮火後に、防排煙設備を遠隔復旧する方法を説明します。

〈防排煙設備を遠隔復旧するには〉

遠隔復旧に対応した防排煙設備(復旧出力用の回線が設定されている)の場合、火災鎮火後は以下のように復旧します。



操作

1

「防排煙起動/復旧」スイッチを2回押します。

「防排煙起動/復旧」スイッチ灯が点滅し、防排煙復旧機能に設定されます。

「実行」スイッチ灯とが点滅します。

2

「△(上)」「▽(下)」「◀(左)」「▶(右)」スイッチを押して復旧回線(作動している回線番号)を選択します。

3

「実行」スイッチを押します。

LCD画面に[復旧中]が表示され、選択した回線の防排煙設備の起動出力が切断され、復旧出力が行われます。

また、「復旧」スイッチ灯が点滅します。

復旧が完了すると、地区灯が消灯し、端末作動音響が停止します。

4

「復旧」スイッチを押します。

LCD画面の[復旧中]の表示が消え、復旧出力が解除されます。

5

「戻る」スイッチまたは「防排煙起動/復旧」スイッチを押します。

「防排煙起動/復旧」スイッチ灯が消灯し、元の状態に戻ります。



復旧する回線が複数ある場合、復旧出力後は都度「復旧」スイッチを押してください。

「復旧」スイッチは、LCD画面の表示が作動から復旧中に切り替わり、地区灯が消灯したことを確認してから押してください。

7 ガスもれ信号を受信したら (ガスもれ機能付の場合)

ここでは、ガスもれ信号を受信した場合の本機の動作について説明しています。
ガスもれ検知器が作動し、本機がガスもれ信号を受信した場合、ガスもれ遅延機能が作動します。
本機の動作を確認し、次の動作を待ちます。

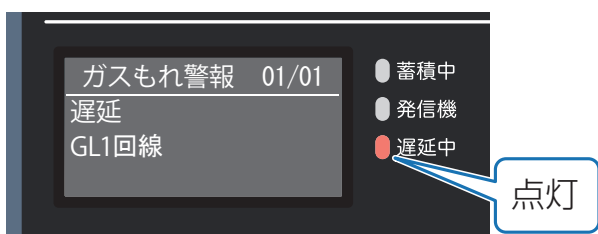


Point

ガスもれ遅延機能とは

殺虫スプレーなど、一過性のガスによってガスもれ検知器が作動してしまうことによる誤報を防ぐ機能です。ガスもれ警報の信頼性を高めるために、ガスもれ検知器からの信号を受信しても、ただちにガスもれ警報を発せず、信号が約40秒間継続したときにガスもれ警報を発します。

ガスもれ遅延機能作動中に本機は以下のように動作します。



「ピンポン」と音響が鳴り、「遅延中」灯が点灯します。また、ガスもれ検知器が作動した回線が表示されます^{※1}。

※1：オプションメッセージが設定されている場合、オプションメッセージが表示されます。

■ ガスもれの場合(ガスもれ信号が約40秒間継続した場合)

ガスもれ発生と判断し、ガスもれ警報を発します。ガスもれ時の本機の動作および対処については、[『8.ガスもれ警報を発したら\(ガスもれ機能付の場合\)』\(p.41\)](#)を参照してください。

■ ガスもれでない場合(ガスもれ信号が約40秒間継続しなかった場合)

「遅延中」灯が消灯し、監視状態に戻ります。平常時の監視状態については、[『3.平常時の監視状態』\(p.26\)](#)を参照してください。



Caution

本機のデータベース設定でガスもれ遅延機能が解除されている場合、ガスもれ遅延機能は作動せず、ガスもれ信号を受信後、ただちにガスもれ警報を発します。

8 ガスもれ警報を発したら（ガスもれ機能付の場合）

〈ガスもれ時の行動〉

ガスもれ時は、以下のとおり行動してください。

操作

- 1 本機の表示を見て、ガスもれ地区を確認します。
- 2 ガスもれ発生場所の確認、自然換気、避難誘導、および消防署（119番）への通報などを行います。

ガスもれ警報が複数発生している場合

ガスもれ警報が複数発生している場合は、LCD画面右上の件数表示の左右に「◀」「▶」が表示されます。

操作

- 1 以下のスイッチを押して、作動した順にガスもれ警報を確認できます（後送り操作）。
最大25イベントまで確認できます。

- 「▶(右)」スイッチ

現表示の次に作動した回線が表示されます。

最終作動を表示した状態でスイッチを押すと、第1作動表示状態に戻ります。

- 「◀(左)」スイッチ

現表示の前に作動した回線が表示されます。

第1作動を表示した状態でスイッチを押すと、最終作動の状態が表示されます。



Caution

誤報だったときは

現場を十分に確認した上で、本機を復旧して平常の監視状態に戻してください。
復旧操作については、[『9.ガスもれの対処後は』\(p.45\)](#)を参照してください。

ガスもれ音響鳴動中の電話呼び出しについて

ガスもれ時は、常にガスもれ音響が優先されます。そのため発信機、表示機からの電話呼び出し音響は鳴らず、「電話」灯の点滅だけになります。

8 ガスもれ警報を発したら（ガスもれ機能付の場合）

ガスもれ音響を停止するには

状況によってガスもれ音響を停止しなければならない場合は、以下の操作で停止できます。



警告



強制・指示

ガスもれ時に保守音響停止にしないでください。

警報音が出なくなるため、避難・ガスもれ対処が遅れるおそれがあります。



操作

1

「この機器の音を止める」スイッチを押します。

ガスもれ音響が停止し、点滅していた「この機器の音を止める」スイッチ灯が消灯します。



Point

一度ガスもれ音響を停止しても、他の回線でガスもれが発生すると、再度ガスもれ音響が鳴ります。

付属設備の動作と操作

ここでは、ガスもれ時の付属設備の動作と、それにとまなう操作について説明しています。接続されている付属設備をあらかじめ確認しておいてください。

付属設備	内容	参照
表示機	〈表示機の音響を停止するには〉	p.44
	〈表示機から本機を電話呼び出しするには〉	p.44

表示機

本機から表示機へガスもれ信号などが送られると、表示機は以下のとおり動作します。

・地区窓表示機

地区灯が点灯し、音響が鳴動します。

・メッセージ表示機

LCD画面に回線番号、種別名称^{※1}、状態文字^{※1}、オプションメッセージ^{※1}を表示し、音響が鳴動します。

※1： データベースの設定内容によります。

8 ガスもれ警報を発したら（ガスもれ機能付の場合）



ガスもれ警報時に表示機を動作させるには、本機のデータベース設定で地区別移報や表示機音響の設定をする必要があります。

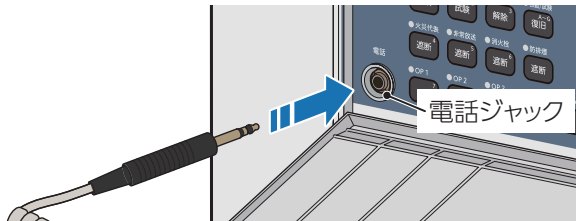
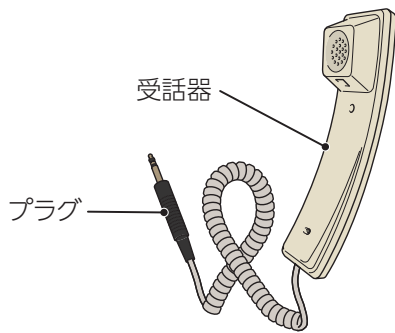
〈表示機の音響を停止するには〉

表示機の「この機器の音を止める」スイッチ^{*1}を押します。

表示機の音響が停止し、スイッチ灯が点灯します。

※1：表示機の型式によってスイッチの名称は異なります。

〈表示機から本機を電話呼び出しするには〉



操作

1

表示機側で受話器のプラグを電話ジャックに差し込みます。

本機の電話呼び出し音響が鳴り、呼び出します。

2

本機側で別の受話器のプラグを電話ジャックに差し込みます。

通話ができるようになります。

9 ガスもれの対処後は



注意



禁止

ガスもれ対処前に機器の復旧操作を行わないでください。

ガスもれ状況の把握が困難になります。また、あわてて復旧操作をすると表示状態の再確認ができなくなり、現場調査に支障をきたすおそれがあります。

ガスもれの対処後は、本機や付属設備を正常な監視状態に復旧してください。

ガスもれ対処後の本機の復旧操作

ここでは、ガスもれ対処後に行う本機の復旧操作について説明しています。

■「ガスもれ非保持」に設定されている場合

ガスもれ検知器が復旧すると、自動的に監視状態に戻ります。

■「ガスもれ保持」に設定されている場合

火災鎮火後の復旧操作と同じです。[『6.火災が鎮火したら』\(p.37\)](#)を参照してください。

本機が正常な監視状態であることを確認します。

正常な監視状態については、[『正常な監視状態の確認』\(p.26\)](#)を参照してください。



Point

「ガスもれ保持」「ガスもれ非保持」の設定は、本機のデータベースで設定されています。



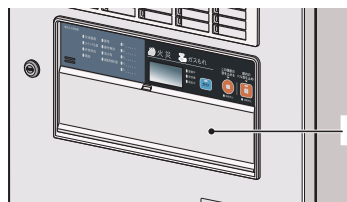
注意



強制・指示

スイッチカバーは、操作後必ず閉じてください。

引っかけたけがをしたり誤操作の原因となります。



スイッチカバー

10 異常警報を発したら

本機には、感知器配線や電源、ヒューズなどの状態を常時監視し、それらの故障を自動的に検出して警報する自己診断機能を備えています。

故障を検出した際には、異常灯、地区灯、異常の内容を知らせる表示がそれぞれ点滅または点灯し、本機の異常音響が鳴ります。



警告



強制・指示

機器の異常時はすみやかに保守点検契約先に連絡してください。

異常を放置すると、正常に機能しません。

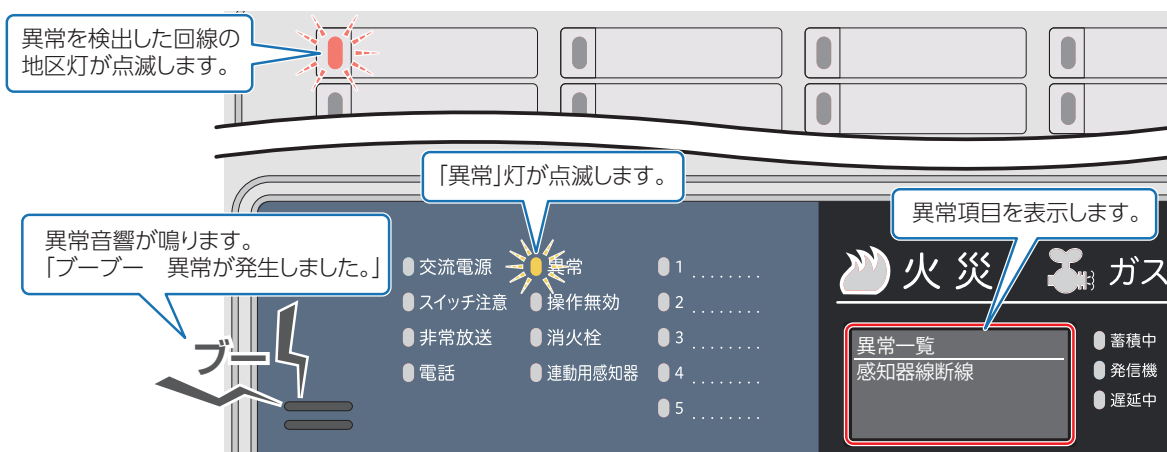


禁止

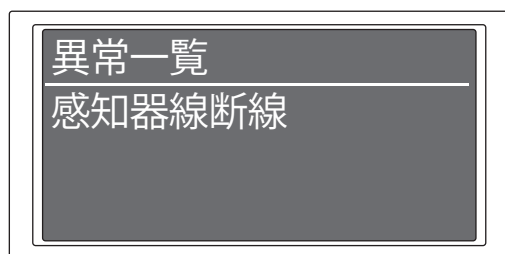
有資格者以外の方は、本機や付属設備などの分解や修理をしないでください。

故障の原因になります。

本機の動作と操作



注) LCD画面に異常項目を表示し、異常灯が点滅します。図は、感知器回線で断線が発生した場合の状態を示しています。



操作

1

本機の表示を見て、異常警報の内容を確認します。

- ・「設定/確認」スイッチを押すと異常一覧の1つめにカーソルが選択されます。
- ・異常が複数ある場合は、「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して、カーソルを移動します。

2

異常警報状態を確認したら、保守点検契約先に連絡します。

10 異常警報を発したら



- ・ 詳細確認が可能な異常は、項目の右側に「▶」が表示されます。カーソル選択を行い、「設定/確認」スイッチ押しして詳細確認できます。
- ・ カーソル選択中に「ガイド」スイッチを押すと異常内容を確認できます。
- ・ 異常の内容については、『異常警報一覧』(p.47)を参照してください。



異常警報時に火災が発生したら

火災やガスもれが発生した場合、火災警報またはガスもれ警報の表示や音響を優先して表示します。また、火災やガスもれが復旧すると、異常警報状態に戻ります。

異常警報一覧

本機が異常警報を発した場合、以下を参照して、状況を確認してください。

No.	異常項目	LCD表示	異常灯	地区灯	故障機器遮断	異常内容
1	日時未設定	異常一覧	点滅	-	-	受信機の時刻が未設定
2	伝送異常ループ	異常一覧	点滅	-	-	・MCU基板とFLU/SLU/ROU/SOU/GLU/BCU基板間の伝送異常 ・最大回線設定の誤り ・存在しない端子の連動が設定されている
3	伝送異常PSU	異常一覧	点滅	-	-	MCU基板とPSU基板間の伝送異常
4	伝送異常LPU	異常一覧	点滅	-	-	・MCU基板とLPU基板間の伝送異常 ・最大回線設定の誤り
5	外部伝送異常	異常一覧	点滅	-	遮断可能	MCU基板とゲートウェイなどの外部機器の伝送異常
6	表示機伝送異常	異常一覧	点滅	-	遮断可能	MCU基板とメッセージ表示機との伝送異常
7	メッセージ表示機異常	異常一覧	点滅	-	遮断可能	メッセージ表示機の故障
8	FAヒューズ断	異常一覧	点滅	-	-	発信機用(FA)ヒューズ断線
9	FPヒューズ断	異常一覧	点滅	-	-	表示灯用(FP)ヒューズ断線
10	FCヒューズ断	異常一覧	点滅	-	-	感知器用(FC)ヒューズ断線
11	FBKヒューズ断	異常一覧	点滅	-	-	地区ベル用(FBK)ヒューズ断線
12	FDCヒューズ断 ^{*1}	異常一覧	点滅	-	-	防排煙用(FDC)ヒューズ断線
13	FIヒューズ断	異常一覧	点滅	-	-	表示機用(FI)ヒューズ断線
14	感知器線断線	異常一覧	点滅	点滅	遮断可能	受信機外線端子(C,L)から終端までの配線の断線
15	発信機応答線入力異常	異常一覧	点滅	-	-	発信機の応答線(A)のみ入力
16	ガスもれ検知器異常 ^{*2}	異常一覧	点滅	-	遮断可能	・ガスもれ検知器の異常 ・受信機外線端子(GL,GC)からガスもれ検知器までの配線の断線、短絡
17	不動作 ^{*1}	異常一覧	点滅	-	遮断可能	防排煙起動制御後、規定時間内に防排煙応答なし

No.	異常項目	LCD表示	異常灯	地区灯	故障機器遮断	異常内容
18	非常放送線断線	異常一覧	点滅	-	-	受信機(CNEB)から非常放送機器までの配線の断線
19	非常放送線短絡	異常一覧	点滅	-	-	受信機(CNEB)から非常放送機器までの配線の短絡
20	スピーカ異常	異常一覧	点滅	-	-	スピーカ、スピーカ線の異常
21	回路電圧異常	異常一覧	点滅	-	-	DC24V電源回路(定電圧電源)の電圧異常
22	予備電源異常	異常一覧	点滅	-	-	・予備電源未接続 ・予備電源用(FE)ヒューズ断線 ・充電回路の異常
23	ROM/RAM チェック異常 ^{*3}	起動失敗画面	点滅	-	-	受信機起動時のMCU基板上的メインCPU内蔵ROM/RAM、外部ROMのチェック異常 ^{*4}
24	CPU異常 ^{*3}	起動失敗画面	点灯	-	-	受信機起動時のMCU基板上的メインCPUの異常 ^{*4}
25	メモリ異常	異常一覧	点滅	-	-	MCU基板上的メインCPU内蔵RTC、外部ROMの異常
26	DB異常	異常一覧	点滅	-	-	・データベース設定で機種設定の誤り ・データベースの書込不良 ・データの破損
27	PSU通信異常 ^{*3}	起動失敗画面	点滅	-	-	・MCU基板とPSU基板の組み合わせの誤り ・受信機起動時のPSU基板の情報取得失敗
28	定期火災試験異常	異常一覧	点滅	-	-	火災受信回路の定期試験の異常 ^{*5}
29	定期ガスもれ試験異常 ^{*2}	異常一覧	点滅	-	-	ガスもれ受信回路の定期試験の異常 ^{*6}
30	LCD脱落	-	点滅	-	-	LCDの脱落、異常
31	他異常(TR端子入力) ^{*7}	異常一覧	点滅	-	-	受信機外線端子(TRC, TR)へ異常信号が入力

注) スピーカ異常以外の全て異常警報で異常音が鳴動します。

※1：複合火災受信機の場合のみ。

※2：ガスもれ機能付の場合のみ。

※3：受信機は正常起動しません。

※4：MCU基板上的の故障です。

※5：PSU基板またはFLU基板上的の異常です。

※6：GLU基板上的の異常です。

※7：SPF基板(特対応)が必要です。

10 異常警報を発したら

異常音響を停止するには

異常音響は、異常から復旧すると自動的に停止しますが、必要に応じて、復旧前に以下の操作で異常音響を停止できます。



操作

1 「この機器の音を止める」スイッチを押します。

異常音響が停止します。

ただし、一度異常音響を停止しても、異常が復旧して再度異常信号を受信した場合や他の異常信号を受信すると、再度異常音響が鳴ります。



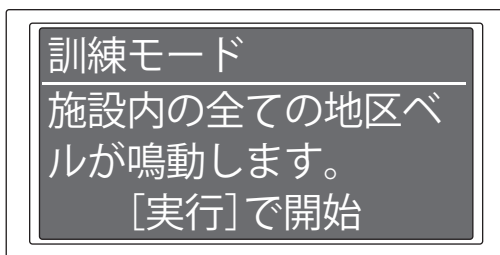
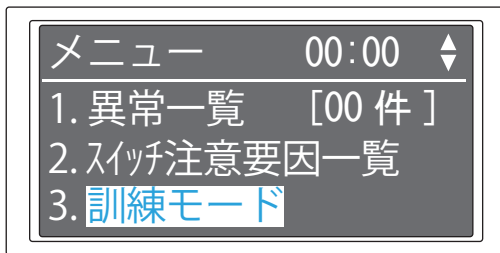
Caution

本機内のCPUが異常の場合、LCD画面には起動失敗画面が表示され、「異常」灯が点灯したままになります。異常音響が鳴り続けますが、この異常音響はスイッチによって止めることはできませんので、すみやかに保守点検契約先に修理を依頼してください。

11 訓練モード

訓練モードは、避難訓練の際に使用するモードです。
施設内のすべての地区音響(地区ベル)を一斉鳴動させます。

■ 訓練モードを実行する



操作

1

「メニュー(保守)」スイッチを押します。
メニュー画面が開きます。

2

「△(上)」 「▽(下)」スイッチを押して
[3.訓練モード]を選択し、「設定/確認」
スイッチを押します。

3

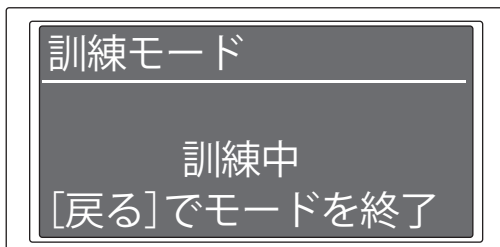
「実行」スイッチを押します。
訓練モード開始です。



Point

- ・ 訓練中は、施設内すべての地区音響(地区ベル)が一斉鳴動します。地区音響一時停止(館内のベル音を止める)が操作されている場合、解除して鳴動させます。
- ・ [館内のベル音を止める]スイッチによる鳴動の一時停止が可能です。再度スイッチを押すことで鳴動が再開します。

■ 訓練モードを終了する



操作

1

「戻る」スイッチを押します。
訓練モード終了です。



Caution

訓練中に火災が発生したら

火災が発生するとただちに訓練モードを解除し、火災警報に切り替わります。

保守点検編

目次

1	各部の名称と機能	52
	補助灯の名称と機能	52
	スイッチ操作部の名称と機能	53
	ガスもれ検知器用電源操作部の名称と機能	55
	メニュー画面	56
2	故障機器遮断	57
3	手動の保守点検試験	59
	準備	59
	火災・他 試験	65
	予備電源試験	74
	蓄積時間試験	76
	ガスもれ遅延時間試験 (ガスもれ機能付の場合のみ)	77
	自動復旧による感知器作動試験	78
	試験復旧による感知器作動試験	79
4	定期受信回路試験	80
5	施工・点検支援モード	81

1 各部の名称と機能

ここでは、保守点検時に使用する本機各部の名称と機能について説明します。

なお、「本体(全体図)の名称と機能(スイッチカバーを開けた状態)」に関しては、運用管理編の『1.各部の名称と機能』(p.16)を参照してください。

補助灯の名称と機能

運用管理と重複する機能や名称については、運用管理編の『補助灯の名称と機能』(p.18)を参照してください。



1 「交流電源」灯(青緑)

本機の交流電源が動作中に点灯し、予備電源が動作中(停電中)に点滅します。

2 「異常」灯(黄)

異常時に点灯または点滅します。

3 「火災」灯(赤)

火災時(感知器作動試験時など)に点滅します。

4 LCD画面

試験時の回線、オプションメッセージ、履歴リスト確認時の日時、発生イベント、または予備電源試験時の予備電源電圧値を表示します。

5 「ガスもれ」灯(黄)

ガスもれ時(ガスもれ試験時など)に点滅します。

6 「蓄積中」灯(赤)

試験による蓄積中に点灯または点滅します。

7 「連動用感知器」灯(赤)(複合火災受信機の場合のみ)

火災試験時などに点灯します。

8 「スイッチ注意」灯(赤)

本機のいずれかのスイッチが操作されると点滅します。

9 「遅延中」灯(赤)(ガスもれ機能付の場合のみ)

試験によるガスもれ遅延中に点灯します。

10 「この機器の音を止める／連続停止」灯(赤)

保守音響の停止中に点滅し、保守異常音響の停止中に点灯します。

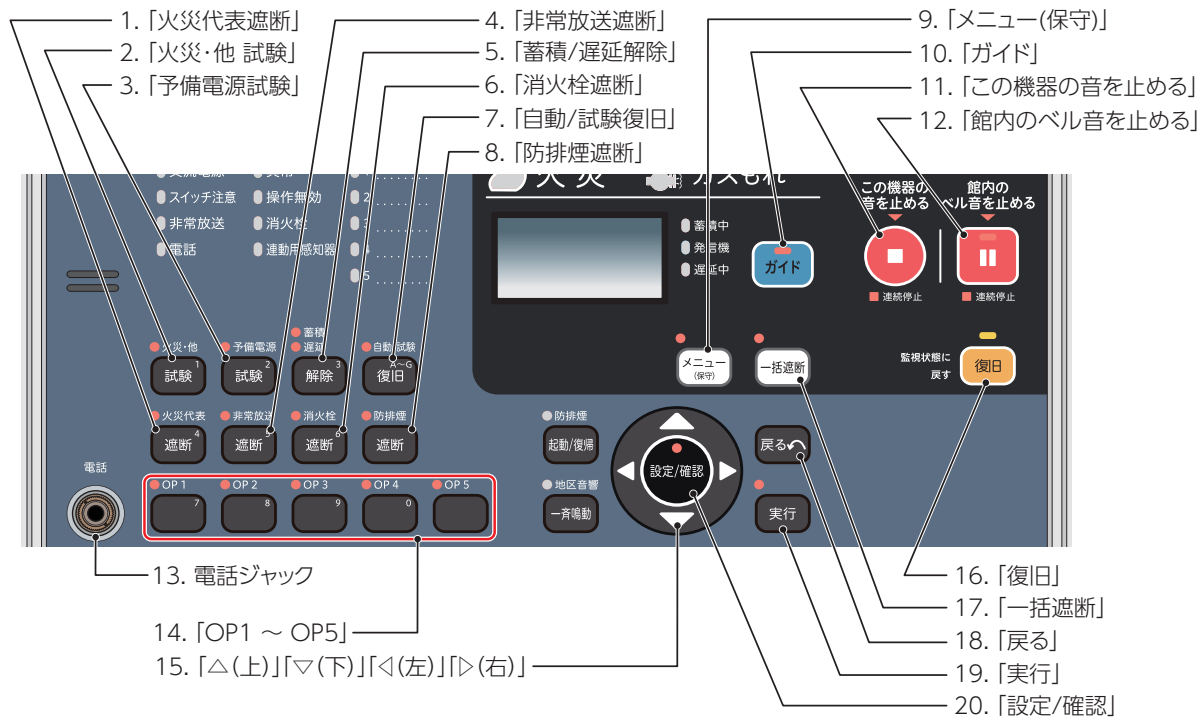
11 「館内のベル音を止める／連続停止」灯(赤)

保守地区音響の停止中に点滅します。

1 各部の名称と機能

スイッチ操作部の名称と機能

運用管理と重複する機能や名称については、運用管理編の『スイッチ操作部の名称と機能』(p.19)を参照してください。



それぞれのスイッチ上部にある状態灯を「○○○○」スイッチ灯と呼びます(○○○○にはスイッチ名が入ります)。

1 「火災代表遮断」スイッチ*

試験前に火災代表の移報を遮断するときに使用します。[p.64](#)を参照してください。

2 「火災・他 試験」スイッチ*

火災試験、総合試験、またはガスもれ試験を開始するときに使用します。
[p.65](#)、[p.68](#)、[p.71](#)を参照してください。

3 「予備電源試験」スイッチ*

予備電源試験を開始するときに使用します。
[p.74](#)を参照してください。

4 「非常放送遮断」スイッチ*

試験前に非常放送の連動を遮断するときに使用します。[p.64](#)を参照してください。

5 「蓄積/遅延解除」スイッチ*

試験前に蓄積解除、遅延解除設定にするときに使用します。なお、「遅延解除」スイッチは、ガスもれ機能付のみ存在します。[p.62](#)を参照してください。

6 「消火栓遮断」スイッチ*

試験前に消火栓ポンプの始動を遮断するときに使用します。[p.63](#)を参照してください。

7 「自動/試験復旧」スイッチ*

自動復旧または試験復旧に設定するときに使用します。[p.78](#)、[p.79](#)を参照してください。

8 「防排煙遮断」スイッチ(複合火災受信機の場合のみ)*

試験前に防排煙設備の連動を遮断するときに使用します。[p.63](#)を参照してください。

9 「メニュー(保守)」スイッチ

メニュー画面の表示に使用します。
また、試験前に保守音響停止、保守異常音響停止、保守地区音響停止に設定するときや、履歴リストを消去するときを使用します。
[p.60](#)、[p.60](#)、[p.61](#)、[p.90](#)を参照してください。

10 「ガイド」スイッチ

「ガイド」スイッチ灯の点滅時に、発生イベントの対応方法などが確認できます。

11 「この機器の音を止める」スイッチ

火災音響やガスもれ音響、異常音響、端末作動音響を停止するときを使用します。
また、試験前に保守音響停止に設定するときを使用します。[p.60](#)を参照してください。

12 「館内のベル音を止める」スイッチ*

地区音響(地区ベル)を停止するときを使用します。
また、試験前に保守地区音響停止に設定するときを使用します。[p.61](#)を参照してください。

13 電話ジャック

発信機や表示機と電話連絡するとき、電話プラグを差し込んで使用します。

14 「OP1 ~ OP5」スイッチ*

オプション機能(遮断スイッチなど)として使用します。[p.64](#)を参照してください。

※ 押してオン状態になると、「スイッチ注意」灯が点滅します。

15 「△(上)」「▽(下)」「◀(左)」「▶(右)」スイッチ

項目選択や回線選択などに使用します。

16 「復旧」スイッチ

火災試験やガスもれ試験などを終了するとき、または総合試験で異常が検出された場合の復旧操作に使用します。[p.67](#)、[p.72](#)、[p.73](#)を参照してください。

17 「一括遮断」スイッチ*

防排煙設備の連動(複合火災受信機の場合のみ)、消火栓ポンプの始動、非常放送への移報、および火災代表の移報を一括で遮断するときを使用します。[p.63](#)を参照してください。

18 「戻る」スイッチ

画面をひとつ前に戻すときや、終了操作などに使用します。

19 「実行」スイッチ

各種メニュー操作の動作実行時などに使用します。
操作が有効なときに、スイッチ灯が点滅します。

20 「設定/確認」スイッチ

選択項目を決定するときを使用します。
操作が有効なときに、スイッチ灯が点滅します。

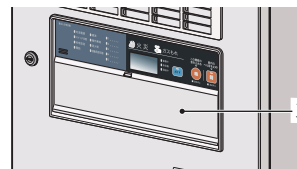


注意



強制・指示

スイッチカバーは、操作後必ず閉じてください。
引っかけたけがをしったり誤操作の原因となります。



スイッチカバー



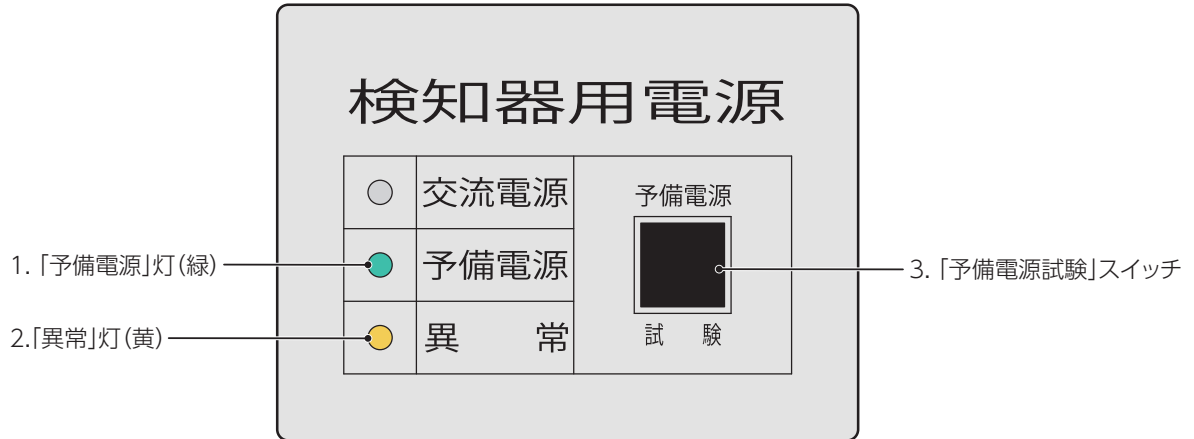
Point

スイッチ操作について

本機の操作スイッチはすべて押しボタンです。スイッチを押すと、スイッチ上部のスイッチ灯が点灯します。また、スイッチの機能説明で、※が付いているスイッチを押した場合は、「スイッチ注意」灯が点滅します。ただし、スイッチを押している間だけ操作が有効になるものについては、「スイッチ注意」灯は点滅しません。

1 各部の名称と機能

ガスもれ検知器用電源操作部の名称と機能



1 「予備電源」灯(緑)

ガスもれ検知器用電源の予備電源試験時に点灯します。

2 「異常」灯(黄)

ガスもれ検知器用電源の予備電源試験で異常検出時に点灯します。

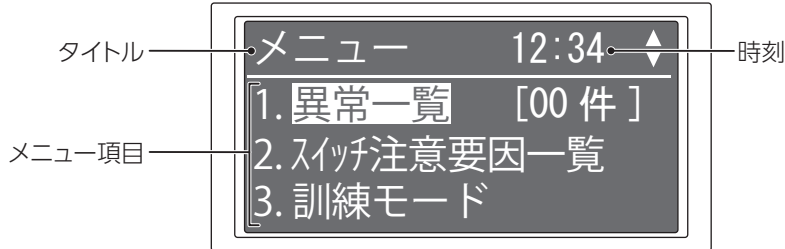
3 「予備電源試験」スイッチ

ガスもれ検知器用電源の予備電源試験をするときに使用します。

1 各部の名称と機能

メニュー画面

メニュー画面に表示される項目を以下に示します。



■ メニュー項目一覧

メニュー項目	内容	参照
1.異常一覧	異常灯点滅の要因を確認できます。	p.47
2.スイッチ注意要因一覧	スイッチ注意灯点滅の要因を確認できます。	p.84
3.訓練モード	避難訓練の際に使用するモードです。	p.50
4.故障機器遮断	配線の異常などを遮断・解除が行えます。	p.57
5.日時設定	日時の設定が行えます。	p.85
6.履歴	操作履歴を確認・消去できます。	p.86
7.詳細メニュー	詳細メニューを表示します。	下表
8.施工点検モード	施工・点検時に作業を支援するモードです。	p.81

■ 詳細メニュー項目一覧

メニュー項目	内容	参照
1.メッセージ表示機遮断	メッセージ表示機を選択して個別に遮断することができます。	p.99
2.DB設定確認	データベース設定で設定した内容を確認できます。	p.100
3.説明書(二次元コード)	製品情報が記載されたWebページへ案内する二次元コードを表示します。	p.104

2 故障機器遮断

断線などの異常が発生した場合の表示を一時的に表示しないようにできます。また遮断機器を一覧で確認できます。

遮断可能な異常は『[異常警報一覧](#)』(p.47)を参照してください。

■故障機器を遮断するには



- ・ 火災などが発生して、システムが作動中の場合は使用できません。
- ・ 故障機器遮断中に新たな異常が発生した場合、故障機器遮断の解除操作をせずに、故障機器遮断を実行すると、既に遮断していた異常と新たな異常を遮断できます。
- ・ 故障機器遮断中の機器が故障回復し、再度故障となった場合でも、故障表示や音響鳴動は行いません。
- ・ 故障機器遮断中はスイッチ注意灯が点滅状態になります。
- ・ 故障機器遮断中の回線は断線などの異常は表示されませんが、感知器などが作動すると火災状態になります。

メニュー 00:00
4. **故障機器遮断** [OFF]
5. 日時設定
6. 履歴

故障機器遮断
遮断状態 遮断OFF
遮断設定 **遮断** / 解除
遮断機器一覧

操作

1 メニューから「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[4.故障機器遮断]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

2 「▷(右)」「◁(左)」スイッチを押して遮断設定の[遮断]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

遮断完了です。

設定後、遮断機器一覧から遮断している機器を確認できます。『[遮断している機器を確認するには](#)』(p.58)を参照してください。



警告



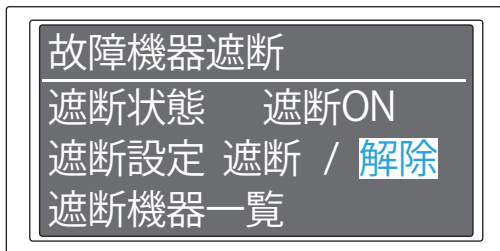
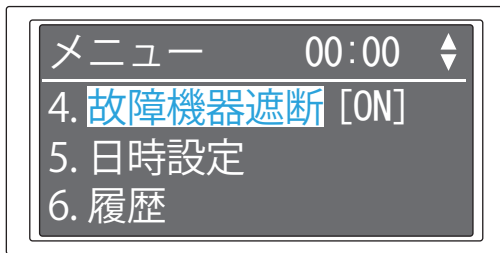
強制指示

故障機器遮断状態の解除を忘れずに!

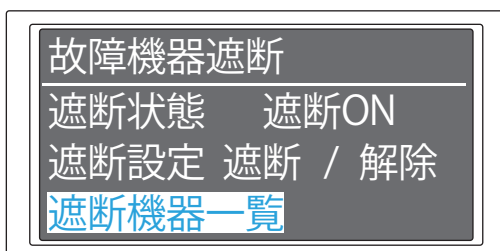
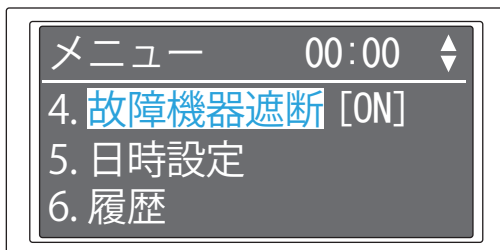
故障機器遮断を行うと、表示されている故障を一時的に非表示にできますが、火災などが発生した場合に正常に機能しないおそれがあります。

異常の原因を取り除いたあと、『[故障機器の遮断を解除するには](#)』(p.58)の操作手順で、遮断状態を解除してください。

■故障機器の遮断を解除するには



■遮断している機器を確認するには



操作

1

メニューから「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[4.故障機器遮断]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

2

「▷(右)」「◁(左)」スイッチを押して遮断設定の[解除]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

解除完了です。

操作

1

メニューから「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[4.故障機器遮断]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

2

「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[遮断機器一覧]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

3

項目が複数ある場合「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して項目を選択します。

詳細確認が可能な異常は、項目の右側に「▶」が表示されます。カーソル選択を行い、「設定/確認」スイッチ押して詳細確認できます。

3 手動の保守点検試験



警告



強制・指示

連動している設備の内容を十分確認して操作してください。

不用意の操作は、機器類に損害を与え、人に危害を与えるおそれがあります。



注意



強制・指示

スイッチカバーは、操作後必ず閉じてください。

引っかけたけがをしたり誤操作の原因となります。

試験後、スイッチ灯が点灯しているスイッチを押して、スイッチ灯および「スイッチ注意」灯を消灯させてください。

「スイッチ注意」灯を消灯させ、正常な監視状態にしないと、火災時またはガスもれ時に正常に動作せず被害を防止できなくなります。

本機には、保守点検時に使用する試験用スイッチがスイッチカバー内に設けられています。試験は感知器の加煙・加熱試験、またはガスもれ検知器の加ガス試験を必要とする場合もあり、原則として保守点検契約先から派遣される保守点検者が試験を実施することになっています。

試験にあたり、本機の音響や地区音響(地区ベル)の連続停止、蓄積機能の作動やガスもれ遅延機能の作動の解除、付属設備の連動の遮断を設定できます。各設定については、[『準備』\(p.59\)](#)を参照してください。



Point

各試験結果は履歴リストに記憶されます。

確認方法については、[『履歴リストを確認するには』\(p.86\)](#)を参照してください。

準備

保守点検試験をする前に、以下の準備で試験環境を設定できます。
必要に応じて設定してください。



警告



強制・指示

試験前に本機の音響や地区音響(地区ベル)を連続停止に設定した場合、試験後に必ず解除してください。

解除しなかった場合、火災時に警報音が出ないため、避難・消火活動が遅れるおそれがあります。

試験前に変更した設定は、試験後に必ず解除してください。

解除しなかった場合、火災時に機能しません。

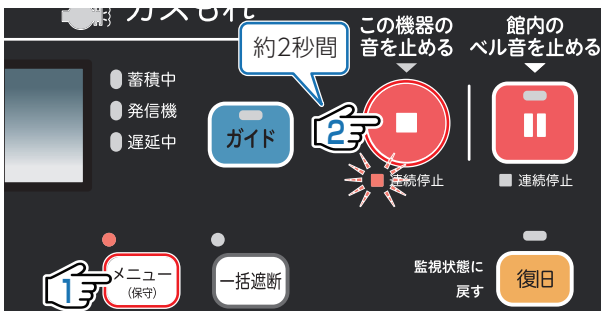
3 手動の保守点検試験

本機の音響、地区音響(地区ベル)の連続停止設定

試験による火災信号やガスもれ信号で、本機の音響または地区音響(地区ベル)が鳴らないように設定します。

〈本機の音響が鳴らないようにするには(保守音響停止)〉

本機の火災音響、ガスもれ音響、異常音響、端末作動音響、および連動用感知器作動音響を連続停止します。



操作

1

「メニュー(保守)」スイッチを押します。

「メニュー(保守)」スイッチ灯が点灯します。

2

「メニュー(保守)」スイッチ灯が点灯中に、「この機器の音を止める」スイッチを2秒間押します。

保守音響停止に設定されます。

このとき、「この機器の音を止める／連続停止」スイッチ灯および「スイッチ注意」灯が点滅し、音響を連続停止します。

なお、本機の音響だけでなく、表示機の音響も連続停止されます。

〈本機の異常音響が鳴らないようにするには(保守異常音響停止)〉

本機の異常音響のみを連続停止します。



操作

1

「メニュー(保守)」スイッチを押します。

「メニュー(保守)」スイッチ灯が点灯します。

2

「メニュー(保守)」スイッチ灯が点灯中に、「▷(右)」スイッチを2秒間押します。

保守異常音響停止に設定されます。

このとき、「この機器の音を止める／連続停止」スイッチ灯が点灯、および「スイッチ注意」灯が点滅し、異常音響を連続停止します。

3 手動の保守点検試験

〈地区音響(地区ベル)が鳴らないようにするには(保守地区音響停止)〉



操作

- 1 「メニュー(保守)」スイッチを押します。
「メニュー(保守)」スイッチ灯が点灯します。
- 2 「メニュー(保守)」スイッチ灯が点灯中に、「館内のベル音を止める」スイッチを2秒間押します。

保守地区音響停止に設定されます。
このとき、「館内のベル音を止める／連続停止」スイッチ灯および「スイッチ注意」灯が点滅し、地区音響(地区ベル)を連続停止します。また、「ブツ」という保守地区音響停止音響が約1分に1回鳴ります。
なお、保守地区音響停止音響を停止することはできません。



保守音響停止、保守異常音響停止、保守地区音響停止の解除を忘れずに!

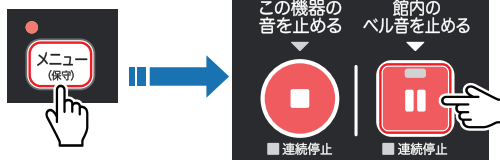
保守音響停止、保守異常音響停止、および保守地区音響停止は必ず解除してください。
それぞれ以下の操作で解除できます。

■ 保守音響停止、保守地区音響停止を解除する場合

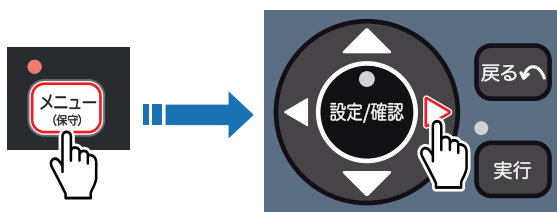
保守音響停止解除



保守地区音響停止解除



■ 保守異常音響停止を解除する場合



操作

- 1 「メニュー(保守)」スイッチを押します。
「メニュー(保守)」スイッチ灯が点灯します。
- 2 「この機器の音を止める」スイッチ(保守地区音響停止解除の場合は、「館内のベル音を止める」スイッチ)を押します(2秒間押す必要はありません)。

操作

- 1 「メニュー(保守)」スイッチを押します。
「メニュー(保守)」スイッチ灯が点灯します。
- 2 「▷(右)」スイッチを押します(2秒間押す必要はありません)。

3 手動の保守点検試験

蓄積機能/ガスもれ遅延機能の作動の解除設定

試験による火災信号やガスもれ信号で、本機が蓄積機能の作動やガスもれ遅延機能の作動をしないように設定(蓄積解除またはガスもれ遅延解除に設定)します。

〈蓄積機能の作動を解除するには〉



操作

1

「蓄積/遅延解除」スイッチを押します。

蓄積解除状態に設定されます。

「蓄積解除」スイッチ灯が点灯し、「スイッチ注意」灯が点滅します。



蓄積解除状態の解除を忘れずに!

蓄積解除設定は、「蓄積/遅延解除」スイッチを再度押して解除してください。

ガスもれ機能付の場合には、「蓄積/遅延解除」スイッチを3回押して解除してください。

〈ガスもれ遅延機能の作動を解除するには(ガスもれ機能付の場合のみ)〉



操作

1

「蓄積/遅延解除」スイッチを2回押します。

ガスもれ遅延解除状態に設定されます。

「遅延解除」スイッチ灯が点灯し、「スイッチ注意」灯が点滅します。



ガスもれ遅延解除状態の解除を忘れずに!

ガスもれ遅延解除設定は、「蓄積/遅延解除」スイッチを2回押して解除してください。

〈蓄積機能とガスもれ遅延機能の作動を同時に解除するには(ガスもれ機能付の場合のみ)〉



操作

1

「蓄積/遅延解除」スイッチを3回押します。

蓄積解除状態およびガスもれ遅延解除状態に設定されます。

「蓄積解除」スイッチ灯および「遅延解除」スイッチ灯が点灯し、「スイッチ注意」灯が点滅します。



蓄積解除状態およびガスもれ遅延解除状態の解除を忘れずに!

蓄積解除状態およびガスもれ遅延解除設定は、「蓄積/遅延解除」スイッチを再度押して解除してください。

3 手動の保守点検試験

付属設備の連動遮断、移報遮断設定

試験による火災信号やガスもれ信号で、付属設備が連動や移報しないように設定します。

〈付属設備の連動および移報を一括で遮断するには〉



操作

1 「一括遮断」スイッチを押します。

以下の連動および移報が遮断されます。

- 防排煙設備の連動 (複合火災受信機の場合のみ)
- 消火栓ポンプの始動
- 非常放送への移報
- 火災代表の移報
- オプションスイッチで遮断に設定した移報

また、「一括遮断」スイッチ灯が点灯し、「スイッチ注意」灯が点滅します。

〈防排煙設備の連動を遮断するには(複合火災受信機の場合のみ)〉

防排煙設備が火災時またはガスもれ時に連動して起動しないように起動信号を遮断します。



操作

1 「防排煙遮断」スイッチを押します。

防排煙設備の連動(DC-Dn)が遮断されます。

「防排煙遮断」スイッチ灯が点灯し、「スイッチ注意」灯が点滅します。

〈消火栓ポンプの始動を遮断するには〉



操作

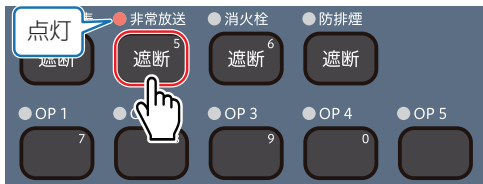
1 「消火栓遮断」スイッチを押します。

消火栓ポンプへの始動信号(Fn-FNCn^{※1}, H-HC)が遮断されます。

「消火栓遮断」スイッチ灯が点灯し、「スイッチ注意」灯が点滅します。

3 手動の保守点検試験

〈非常放送への移報を遮断するには〉



操作

1 「非常放送遮断」スイッチを押します。

非常放送への信号(階別火災信号(Fn-FNCn^{*1})と火災確認信号出力(EC-EF))が遮断されます。

「非常放送遮断」スイッチ灯が点灯し、「スイッチ注意」灯が点滅します。

〈火災代表の移報を遮断するには〉

火災警報状態になると、火災代表信号が移報されますが、この信号を遮断できます。



操作

1 「火災代表遮断」スイッチを押します。

火災信号の移報(FA-FB-FC,Fn-FNCn^{*1})が遮断されます。

「火災代表遮断」スイッチ灯が点灯し、「スイッチ注意」灯が点滅します。

〈オプションスイッチで遮断に設定した移報を遮断するには〉



操作

1 オプションスイッチ(遮断)を押します。

移報先への火災信号(Fn-FNCn^{*1})などの移報が遮断されます。

オプションスイッチのスイッチ灯が点灯し、「スイッチ注意」灯が点滅します。

※1：データベース設定による



付属設備の連動遮断、移報遮断の解除を忘れずに!

付属設備の連動遮断、移報遮断設定は、それぞれのスイッチを再度押し解除してください。

3 手動の保守点検試験

火災・他 試験

「火災・他 試験」には以下の3種類があり、本機および各回線の火災警報、ガスもれ警報機能が正常であるかを確認します。

• 火災試験(回線ごと)

本機の表示・警報・連動機能が正常に動作するかを確認します。

• 総合試験

本機の補助灯、スイッチ灯、全回線の地区灯の点灯試験、および火災受信回路の試験を実施します。ガスもれ機能付の場合は、ガスもれ受信回路の試験も実施します。

• ガスもれ試験(回線ごと)(ガスもれ機能付の場合のみ)

ガスもれ受信回路の試験を実施し、本機の表示・警報機能が正常に動作するかを確認します。

火災試験の方法



火災試験の準備について

火災試験では、自動的に一括遮断状態になります。

必要に応じて一括遮断状態を解除し、『準備』(p.59)を実施してください。



操作

1

「火災・他 試験」スイッチを押します。

「火災・他 試験」スイッチ灯が点灯し、火災試験状態になります。

LCD画面に[火災試験]と表示され、「一括遮断」スイッチ灯が点灯します。また、「スイッチ注意」灯が点滅します。

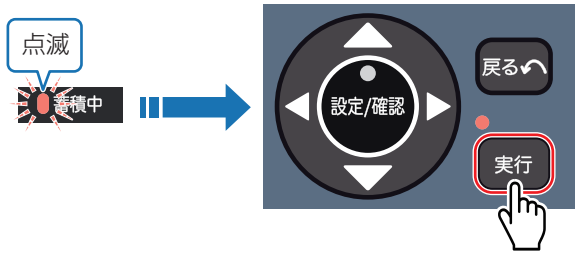
2

「△(上)」「▽(下)」「◀(左)」「▶(右)」スイッチを押して、回線やアドレスを選択します。

3 手動の保守点検試験



3 「実行」スイッチを押します。
 「実行」スイッチ灯が約1秒間点灯し、蓄積機能が作動を開始します。蓄積解除されている場合、「実行」スイッチを押すと、ただちに火災警報状態になりますので、操作**5**に進んでください。

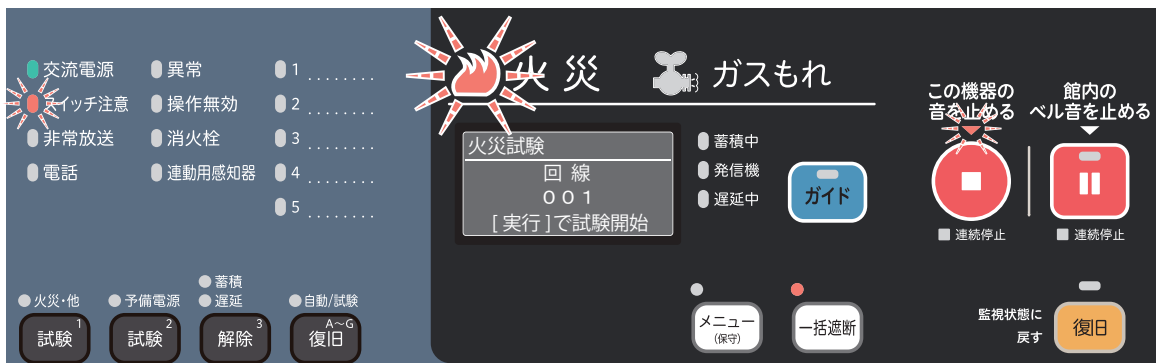


4 「蓄積中」灯が点滅に変わってから、再度「実行」スイッチを押します。
 選択した回線が火災警報状態になります。

5 受信機の動作および地区音響(地区ベル)の鳴動を確認します。

■ 選択した回線が火災回線の場合

火災音響、地区音響(地区ベル)の鳴動、「火災」灯の点滅、および地区灯の点灯を確認します。保守音響停止、保守地区音響停止に設定されている場合は、火災音響および地区音響(地区ベル)は鳴りませんので、「火災」灯と地区灯を確認してください。



3 手動の保守点検試験

■ 選択した回線が防排煙回線の場合(複合火災受信機の場合のみ)

連動用感知器作動音響の鳴動、「連動用感知器」灯の点灯、および地区灯の点滅を確認します。保守音響停止に設定されている場合は、連動用感知器作動音響は鳴りませんので、「連動用感知器」灯と地区灯を確認してください。

地区灯は以下のとおり表示されます。

- 防排煙設備に起動制御がかかると地区灯が点滅
- 防排煙設備が作動すると地区灯が点灯



Point

防排煙機器の作動について

一括遮断を解除すると、防排煙起動制御がかかります。防排煙機器の作動信号を受信することで、防排煙作動音響が鳴動し、地区灯が点灯に切り替わります。



Point

別回線の火災試験をするには

■ 火災試験状態を復旧してから、別回線の火災試験を開始する場合



■ 火災試験状態を復旧せずに別回線の火災試験を続ける場合

復旧せずに続けて試験を実施する場合、5回線までとしてください。

操作

1

「復旧」スイッチを押します。
火災警報状態から復旧します。

2

再度、操作2 (p.65) の回線の選択から操作します。

操作

1

再度、操作2 (p.65) の回線の選択から操作します。

3 手動の保守点検試験



火災試験での端末情報、オプションメッセージの表示について

端末の種別名称、オプションメッセージが設定されている回線は、「ガイド」スイッチを押すことでLCD画面にそれらの情報が表示されます。
防排煙回線は初期状態で種別名称に「連動用感知器」が設定されています。
他の回線やアドレスを選択する場合は再度ガイドスイッチを押してください。



火災試験中に火災などが発生したら

火災試験中にいずれかの回線が、火災・連動用感知器の作動信号(蓄積機能の作動を含む)やガスもれ検知器の作動信号(ガスもれ遅延機能の作動を含む)を受信した場合、自動的に火災試験が解除され、警報状態になります(蓄積解除していない場合は蓄積状態に、ガスもれ遅延解除していない場合はガスもれ遅延状態になります)。

火災試験の結果

〈正常なときは〉

試験を実施した回線に対し、火災警報状態となります。

〈失敗したときは〉

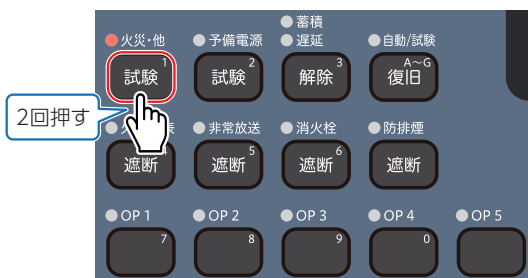
火災警報状態になりません。

総合試験の方法

この試験では、本機の補助灯、スイッチ灯、全回線の地区灯の点灯試験、および全回線の火災受信回路の試験を実施します。火災受信回路の試験は、1回線から順次自動的に実施します。ガスもれ機能付の場合、ガスもれ受信回路の試験は、火災受信回路の試験の後に1回線から順次自動的に実施します。



総合試験では、火災信号やガスもれ信号の移報や付属設備への移報はしないため、[「準備」\(p.59\)](#)の設定は必要ありません。



操作

1 「火災・他 試験」スイッチを2回押します。

「火災・他 試験」スイッチ灯が点灯し、LCD画面に[総合試験]と表示され、総合試験状態となります。「スイッチ注意」灯が点滅します。

3 手動の保守点検試験

総合試験

総合試験を実施します。
[実行]で試験開始

総合試験

盤面LEDの確認
残り 10秒
[実行]で回線試験へ

2 「実行」スイッチを押します。

総合試験終了まで「実行」スイッチ灯が点灯し、以下の試験を順次自動的に実施します。

- 全補助灯と全スイッチ灯が点灯、LCD画面にて残り時間をカウントダウン表示（「実行」スイッチでスキップ可）
- 火災受信回路の試験
この試験では、全回線の火災受信回路の試験および全地区灯の点灯試験をします。火災受信回路の試験時には、火災音響、連動用感知器作動音響、および地区音響（地区ベル）は鳴りません。試験回線に合わせ、順次地区灯が点灯していきます。
- ガスもれ受信回路の試験
この試験では、全ガスもれ回線のガスもれ受信回路の試験および全ガスもれ地区灯の点灯試験をします。ガスもれ受信回路の試験時には、ガスもれ音響は鳴りません。試験回線に合わせ、順次地区灯が点灯していきます。



全補助灯とスイッチ灯は目視で確認してください。

3 手動の保守点検試験

総合試験(火災受信回路試験)の結果

〈正常なときは〉

すべての回線の地区灯が順次点灯します。総合試験終了後は、操作したスイッチを元に戻して監視状態にしてください。

〈受信回路試験で異常を検出したときは〉

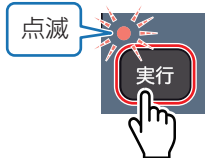
異常を検出すると、異常音響が鳴り、以下のように動作します。なお、試験は、異常が検出された回線で停止します。



Point

異常が検出されたあとも試験を続けるときは

異常が検出された回線がLCD画面に表示されている間に、スイッチ灯が点滅している「実行」スイッチを押してください。異常警報状態から復旧し、次の回線から試験を続けます。



Caution

- ・ 異常時は復旧操作をして、スイッチを元に戻してから調査、修理してください。復旧操作については、[『6.火災が鎮火したら』\(p.37\)](#)を参照してください。

・ 総合試験中に火災などが発生したら

総合試験中にいずれかの回線が、火災・連動用感知器の作動信号(蓄積機能の作動を含む)やガスもれ検知器の作動信号(ガスもれ遅延機能の作動を含む)を受信した場合、自動的に総合試験が解除され、警報状態になります(蓄積解除していない場合は蓄積状態に、ガスもれ遅延解除していない場合はガスもれ遅延状態になります)。

3 手動の保守点検試験

ガスもれ試験の方法(ガスもれ機能付の場合のみ)

この試験では、ガスもれ回線のガスもれ受信回路の試験を実施し、本機の表示・警報機能が正常に動作するかを確認します。



ガスもれ試験の準備について

ガスもれ試験では、自動的に一括遮断状態になります。

必要に応じて一括遮断状態を解除し、[『準備』\(p.59\)](#)を実施してください。



操作

1

「火災・他 試験」スイッチを3回押します。

「火災・他 試験」スイッチ灯が点灯し、LCD画面に[ガスもれ試験]と表示され、ガスもれ試験状態となります。

「一括遮断」スイッチ灯が点灯します。

「スイッチ注意」灯が点滅します。

2

「△(上)」「▽(下)」「◀(左)」「▶(右)」スイッチを押して、回線を選択します。

3

「実行」スイッチを押します。

「実行」スイッチ灯が約1秒間点灯し、ガスもれ遅延機能が作動を開始します。

ガスもれ遅延解除されている場合、「実行」スイッチを押すと、ただちにガスもれ警報状態になります。

4

受信機の動作を確認します。

3 手動の保守点検試験



別回線のガスもれ試験をするには

■ 「ガスもれ非保持」設定の場合

操作

1 再度、操作2 (p.71) の回線の選択から操作します。

ガスもれ警報を表示していた回線は復旧します。

■ 「ガスもれ保持」設定の場合

・ ガスもれ試験状態を復旧してから、別回線のガスもれ試験を開始する場合



操作

1 「復旧」スイッチを押します。
ガスもれ警報状態から復旧します。

2 再度、操作2 (p.71) の回線の選択から操作します。

・ ガスもれ試験状態を復旧せずに別回線のガスもれ試験を続ける場合

復旧せずに続けて試験を実施する場合、5回線までとしてください。

操作

1 再度、操作2 (p.71) の回線の選択から操作します。



ガスもれ試験中に火災などが発生したら

ガスもれ試験中にいずれかの回線が、火災・連動用感知器の作動信号 (蓄積機能の作動を含む) やガスもれ検知器の作動信号 (ガスもれ遅延機能の作動を含む) を受信した場合、自動的にガスもれ試験が解除され、警報状態になります (蓄積解除していない場合は蓄積状態に、ガスもれ遅延解除していない場合はガスもれ遅延状態になります)。

3 手動の保守点検試験

ガスもれ試験の結果

〈正常なときは〉

試験を実施した回線に対し、ガスもれ警報状態となります。

〈失敗したときは〉

ガスもれ状態にも異常状態にもなりません。

各試験の終了方法



操作

1

LCD画面に何も表示されなくなるまで「火災・他 試験」スイッチ、または「戻る」スイッチを数回押します。

本機が元の状態に戻ります。



火災試験／ガスもれ試験は上記の操作でも終了できますが、原則として以下の操作で終了するようにしてください。



操作

1

「復旧」スイッチを押します。

火災警報状態やガスもれ警報状態が復旧します。

2

火災警報状態やガスもれ警報状態が復旧したのを確認して、操作したスイッチを押して元に戻します。

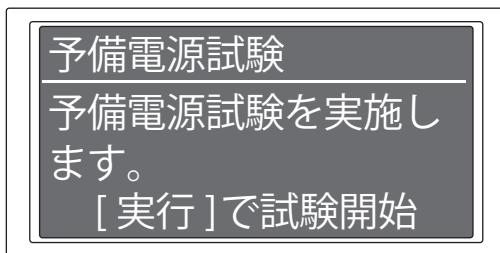
3 手動の保守点検試験

予備電源試験

この試験では、本機に予備電源として内蔵されている蓄電池に、停電時の定格負荷を与えることで予備電源電圧を試験し、予備電源電圧値を確認します。

試験中は回路電源が予備電源に切り替わりますが、「交流電源」灯は点灯したままです。なお、停電時に予備電源試験はできません。

予備電源試験の方法



操作

1

「予備電源試験」スイッチを押します。

LCD画面に[予備電源試験]と表示され、「予備電源試験」スイッチ灯が点灯し、「スイッチ注意」灯が点滅します。

2

「実行」スイッチを押します。

「実行」スイッチ灯は、予備電源試験中点灯し続けます。

試験中には、LCD画面に予備電源電圧値が「2桁+小数点第1位」(小数点第2位以下は四捨五入)で表示されます。



予備電源の試験時間は20秒間です。

3 手動の保守点検試験

予備電源試験の結果

〈正常なときは〉

LCD画面に試験終了時の電圧値が表示され、「実行」スイッチ灯が点滅します。

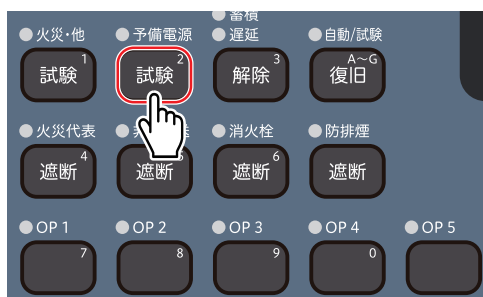
〈異常を検出したときは〉

予備電源電圧値が規定電圧(20.4V)以下となった場合、異常と判定され、異常音響が鳴り、下図のように動作します。



- ・ 異常時は、回路電圧を正常に維持するために、回路電源が予備電源から交流電源に自動的に切り替わります。ただし、予備電源試験を終了するまで異常警報状態は続きます。
- ・ 予備電源は約50時間監視状態を続けることで満充電となります。
- ・ 予備電源が十分に充電されていても異常となる場合は、予備電源の劣化などが考えられます。有資格者が対処してください。

予備電源試験の終了方法



操作

1

「予備電源試験」スイッチを押します。

平常時の監視状態に戻ります。



予備電源試験中に火災などが発生したら

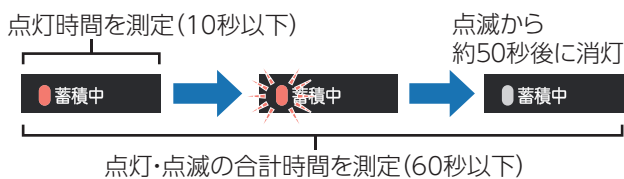
予備電源試験中にいずれかの回線が、火災・連動用感知器の作動信号(蓄積機能の作動を含む)やガスもれ検知器の作動信号(ガスもれ遅延機能の作動を含む)を受信した場合、自動的に予備電源試験が解除され、警報状態になります(蓄積解除していない場合は蓄積状態に、ガスもれ遅延解除していない場合はガスもれ遅延状態になります)。

3 手動の保守点検試験

蓄積時間試験

この試験では、本機の蓄積機能と蓄積時間を確認します。
なお、試験にあたり、蓄積時間を測定するストップウォッチなどを準備してください。

蓄積時間試験の方法



操作

1

「火災・他 試験」スイッチを押します。
火災試験状態になります。

2

「△(上)」「▽(下)」「◀(左)」「▶(右)」
スイッチを押して、蓄積解除されていない
回線を選択します。

3

「実行」スイッチを押します。
「実行」スイッチを押すと火災試験が開始
され、「蓄積中」灯が点灯します。
「蓄積中」灯が点灯から点滅に変わり、約50
秒後に消灯します。

4

蓄積中の時間をストップウォッチなどで
測定します。

測定時間については以下のPointを参照
してください。



Point

蓄積時間が正常な場合は、以下のようになります。

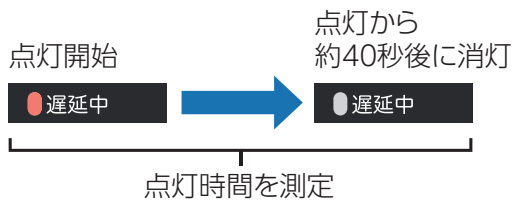
- 点灯と点滅の合計時間(公称蓄積時間)が60秒以下
- 点灯時間(熱感知器蓄積時間)が10秒以下
- 点滅時間(煙感知器蓄積時間)が約50秒

3 手動の保守点検試験

ガスもれ遅延時間試験(ガスもれ機能付の場合のみ)

この試験では、本機のガスもれ遅延機能と遅延時間を確認します。
なお、試験にあたり、遅延時間を測定するストップウォッチなどを準備してください。

ガスもれ遅延時間試験の方法



操作

- 1 「火災・他 試験」スイッチを3回押します。
ガスもれ試験状態になります。
- 2 「△(上)」「▽(下)」「◀(左)」「▶(右)」スイッチを押して、ガスもれ遅延解除されていない回線を選択します。
- 3 「実行」スイッチを押します。
ガスもれ試験が開始され、「遅延中」灯が点灯します。
- 4 蓄積中の時間をストップウォッチなどで測定します。
「遅延中」灯は、約40秒後に消灯します。



正常なガスもれ遅延時間は、約40秒です。

3 手動の保守点検試験

自動復旧による感知器作動試験

自動復旧とは、火災信号を自己保持した感知器（一度火災検出すると、火災状態を保持する機能を持った感知器）が作動した約8秒後に、感知器用電源を遮断して感知器と本機を復旧させる機能です。これにより、「復旧」スイッチを操作せずに順次試験を実施できます。

自動復旧の設定方法



操作

1

「自動／試験復旧」スイッチを1回押します。蓄積機能が解除されます。「自動／試験復旧」スイッチ灯が点灯し、「スイッチ注意」灯が点滅します。連続した火災信号を受信中に、約8秒間経過すると自動的に感知器を復旧させ、その動作を繰り返します。

自動復旧の解除方法



操作

1

「自動／試験復旧」スイッチを2回押します。平常時の監視状態に戻ります。



Point

「自動／試験復旧」スイッチの自動解除

「自動／試験復旧」スイッチを操作後、万一元に戻すのを忘れても、自動／試験復旧の各状態は、約60分間操作や状態変化が何もないと自動的に解除され、平常時の監視状態に戻ります。

3 手動の保守点検試験

試験復旧による感知器作動試験

試験復旧とは、自己保持機能を持たない感知器が復旧すると本機も復旧する機能です。

これにより、手動で「復旧」スイッチを操作せずに順次試験を実施できます。

この機能は、自己保持機能を持たない熱式感知器(主に差動式分布型感知器(確認灯無しタイプ)の作動)の試験に適しています。

試験復旧の設定方法



操作

1 「自動／試験復旧」スイッチを2回押します。

蓄積機能が解除されます。

「自動／試験復旧」スイッチ灯が点滅し、「スイッチ注意」灯が点滅します。

自己保持機能を持たない感知器が復旧するまで火災警報状態になります。

試験復旧の解除方法



操作

1 「自動／試験復旧」スイッチを1回押します。

平常時の監視状態に戻ります。



Point

「自動／試験復旧」スイッチの自動解除

「自動／試験復旧」スイッチを操作後、万一元に戻すのを忘れても、自動／試験復旧の各状態は、約60分間操作や状態変化が何もないと自動的に解除され、平常時の監視状態に戻ります。

4 定期受信回路試験

本機は、各回線の火災受信回路およびガスもれ受信回路(ガスもれ機能付の場合のみ)を試験する定期受信回路試験を実施します。

定期受信回路試験は、毎週月曜日10時(固定)に実施されます。

定期受信回路試験中は、本機は特に動作しません。試験が終了すると、履歴リストに試験結果が記憶されます。

なお、試験が異常の場合は、異常音響が鳴動し、異常一覧に「定期火災試験異常」または「定期ガスもれ試験異常」が表示されます。

5 施工・点検支援モード

施工・点検を支援するモードです。

施工・点検支援モードに入ると各種遮断スイッチなどがオン状態になります。なお、モード終了時にはモードに入る前のスイッチ状態に戻ります。

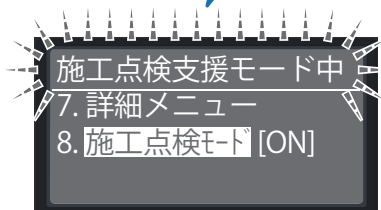


Point

施工・点検支援モード中の各種状態

- 以下のスイッチがオン状態になります。
 - ・ 保守音響停止
 - ・ 保守地区音響停止
 - ・ 一括遮断
 - ・ 蓄積/遅延解除
 - ・ 火災代表遮断
 - ・ 非常放送遮断
 - ・ 消火栓遮断
 - ・ 防排煙遮断
 - ・ オプションスイッチ (遮断設定のみ)

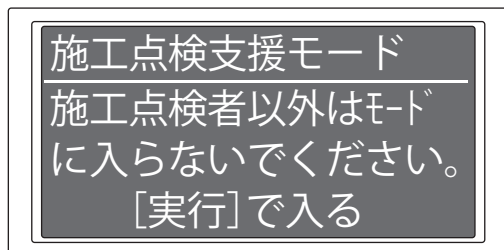
「施工点検支援モード中」を
10秒に1回点滅表示します。



Caution

有資格者(施工点検者)以外はモードに入らないでください。

■ 施工・点検支援モード開始時は



操作

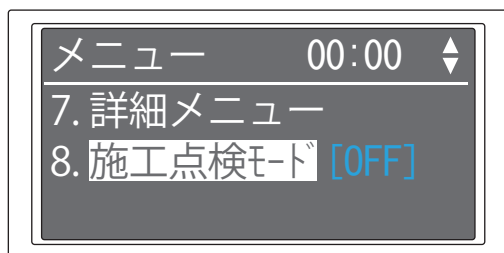
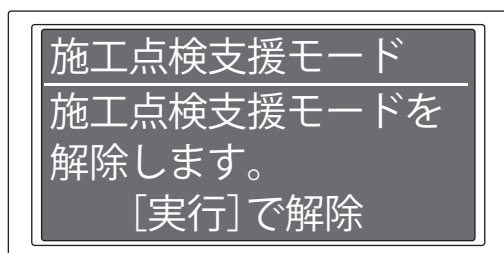
1 メニューから「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[8.施工点検モード]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

2 「実行」スイッチを押します。

施工・点検支援モードがONになります。スイッチ注意灯が点滅、画面タイトル行に「施工点検支援モード中」と10秒ごとに表示されます。また、メニューの表示が[ON]に切り替わります。

5 施工・点検支援モード

■ 施工・点検支援モード終了時は



操作

1 メニューから「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[8.施工点検モード]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

2 「実行」スイッチを押します。
施工・点検支援モードがOFFになり、モードに入る前のスイッチ状態に戻ります。
メニューの表示が[OFF]に切り替わります。
また、スイッチ状態が施工・点検支援モード(ON)の前の状態に戻ります。

付録

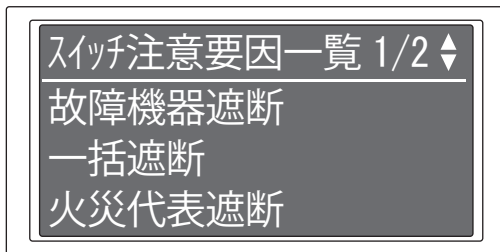
目次

1	スイッチ注意要因一覧	84
2	日時設定	85
3	履歴リストについて	86
	履歴リストを確認するには	86
	履歴リストを一括消去するには	90
	履歴一覧	91
	履歴リストの保存方法	98
4	メッセージ表示機遮断	99
5	データベース設定の確認	100
6	SDカードの取り扱いについて	103
7	説明書(二次元コード)	104
8	電話の取り扱いについて	105
9	操作無効機能	106
	操作無効機能を設定するには	106
	操作無効機能を解除するには	106
10	仕様	107

1 スイッチ注意要因一覧

スイッチ注意灯点滅時の点滅要因となっているスイッチを確認できます。
 スイッチ注意灯点滅時は、何らかのスイッチ操作が行われている状態であることを示しています。

■ 一覧の見方



操作

1 メニューから「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[スイッチ注意要因一覧]を選択します。

2 「設定/確認」スイッチを押します。
 スイッチ注意要因が一覧表示されます。
 複数の項目がある場合、「△上」「▽下」スイッチで項目を切り替えて一覧を確認します。

スイッチ注意要因		
施工・点検支援モード	地区音響停止	地区音響一斉鳴動(手動)
故障機器遮断	保守音響停止	火災試験モード
メッセージ表示機個別遮断	保守地区音響停止	ガスもれ試験モード ^{※2}
一括遮断	保守異常音響停止	総合試験モード
火災代表遮断	蓄積解除	防排煙起動/復帰モード ^{※1}
非常放送遮断	遅延解除 ^{※2}	訓練モード
消火栓遮断	蓄積・遅延解除 ^{※2}	スイッチ注意入力 ^{※3}
防排煙遮断 ^{※1}	自動復旧モード	
オプションスイッチ	試験復旧モード	

※1：複合火災受信機の場合のみ

※2：ガスもれ機能付の場合のみ

※3：特盤の場合のみ

2 日時設定

ここでは、本機の日時設定の方法について説明します。
初期設定では、「2022/01/01/00:00」に設定されています。



Point

- ・ 本機の運用にあたっては、必ず日時設定を行ってください。
日時設定を行っていない場合、日時未設定異常が表示されます。
- ・ 設定可能日時範囲は、「2023/01/01/00:00～2099/12/31/23:59」です。



操作

1

メニューから「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して、「5.日時設定」を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

2

「△(上)」「▽(下)」「◀(左)」「▶(右)」スイッチを押して、日時を設定します。

3

「実行」スイッチを押します。
日時設定が更新されます。

4

「戻る」スイッチを押し、日時設定を終了します。



注意



強制・指示

- ・ 電源断の状態が続いた場合^{※1}は日時設定がリセットされ、初期状態(2022年1月1日)になります。再度日時設定を行ってください。
 - ・ 1年に数分のズレが発生する可能性があります。必要に応じて日時設定を行ってください。
- ※1: 通常は1日～4日でリセットされます。使用環境などにより期間にばらつきがあります。

3 履歴リストについて

ここでは、履歴リストの確認方法および消去方法について説明します。

■ 全履歴

全履歴	全ての履歴が表示されます。
日時範囲指定	全履歴の検索範囲が設定できます。
イベント指定	[異常][火災][ガスもれ] ^{*1} [端末装置][諸警報入力][スイッチ操作]のイベントを指定し、履歴を表示します。
SDカードへ保存	全履歴をSDカードに保存します。

※1：ガスもれ機能付の場合のみ



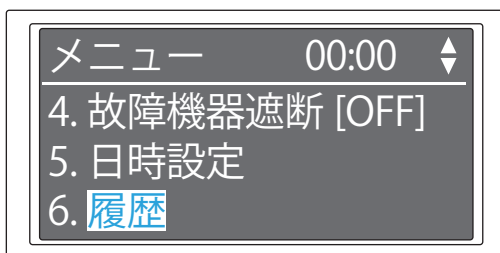
- ・ 全履歴は、20,000件まで履歴を記憶できます。履歴が20,000件を超えた場合、古い履歴から順に上書きされます。

履歴リストを確認するには



- ・ 発生イベントがない場合は、[履歴がありません]と表示されます。
- ・ 履歴の表示内容は1画面1履歴とし、新着順に表示されます。「▽(下)」スイッチを押すと古い履歴へ、「△(上)」スイッチを押すと新しい履歴へ送ることができます。

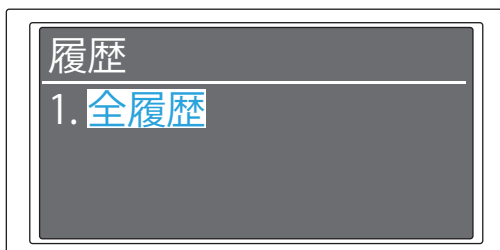
全履歴から全件表示の確認方法



操作

1

メニューから「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して、[6.履歴]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。



2

[1.全履歴]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

3 履歴リストについて



3 [1.全件表示]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

履歴が表示されます。

履歴の内容については、『履歴一覧』(p.91)を参照してください。

4 履歴が複数ある場合は「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して、表示を切り替えます。

① 発生日時

② イベント詳細

③ 「▶」表示がある場合「設定/確認」スイッチまたは、「▷(右)」スイッチを押して詳細確認画面を表示します。

日時範囲指定

全履歴の検索範囲を指定して検索できます。



Point

指定可能範囲は、「2000/01/01 00:00～2099/12/31 23:59」です。

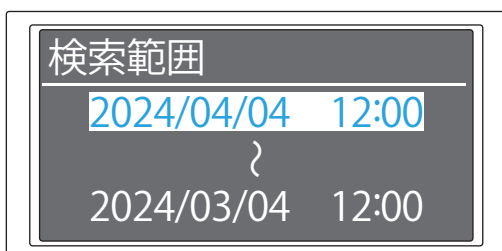
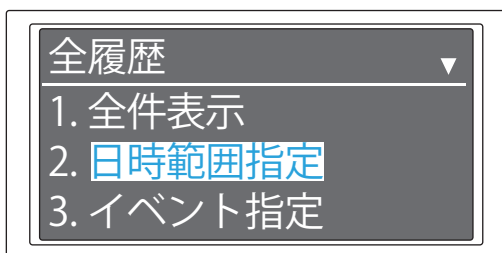
操作

1

『全履歴から全件表示の確認方法』(p.86)の操作2までを行います。

2

[2.日時範囲指定]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。



3

「現在日時」～「1か月前の日時」が表示されるので、「設定/確認」スイッチを押します。

開始日時設定画面になります。

3 履歴リストについて

開始日時
▲
2024/04/04 12:00
▼

検索範囲
2024/04/04 12:00
→
2024/03/04 12:00

終了日時
▲
2024/03/04 12:00
▼

全履歴 4000/4000 ▼
2024/04/04 10:00
感知器線断線回復
L1 回線

4 「△(上)」「▽(下)」「◀(左)」「▶(右)」スイッチを押して、日時を指定し、「設定/確認」スイッチを押します。

5 「▽(下)」スイッチを押して、終了日時を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。終了日時設定画面になります。

6 「△(上)」「▽(下)」「◀(左)」「▶(右)」スイッチを押して、日時を設定し、「設定/確認」スイッチを押します。

7 「実行」スイッチを押します。
検索が開始され、履歴が表示されます。
履歴の内容については、『[履歴一覧](#)』(p.91)を参照してください。

8 履歴が複数ある場合は「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して、表示を切り替えます。



Point

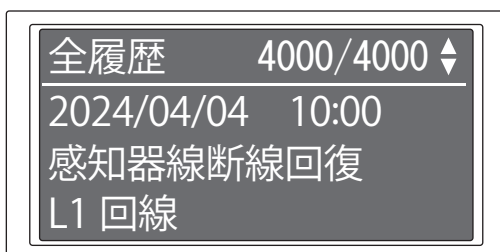
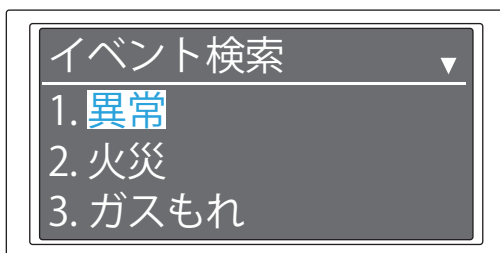
日時範囲指定を選択した場合、以下の操作が可能です。

- ・ 該当イベントを検索中に「戻る」スイッチを押すと、検索をキャンセルし、前の画面に戻ります。
- ・ 履歴リスト表示中に「ガイド」スイッチを押すと、指定された日時の範囲を表示します。

3 履歴リストについて

イベント指定

[異常][火災][ガスもれ][端末装置][諸警報入力][スイッチ操作]の6つからイベントを指定して検索できます(複数選択可)。



操作

1 『[全履歴から全件表示の確認方法](#)』(p.86)の操作**2**までを行います。

2 [3.イベント指定]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

3 「△(上)」 「▽(下)」スイッチを押してイベントを選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

イベントは複数選択可能です。
イベント項目については、以下を参照してください。

イベント項目	
1.異常	4.端末装置
2.火災	5.諸警報入力
3.ガスもれ	6.スイッチ操作

4 「実行」スイッチを押します。

履歴が表示されます。
履歴の内容については、『[履歴一覧](#)』(p.91)を参照してください。

5 履歴が複数ある場合は「△(上)」 「▽(下)」スイッチを押して、表示を切り替えます。



Point

イベント指定を選択した場合、以下の操作が可能です。

- ・履歴リスト表示中に「ガイド」スイッチを押すと、検索したイベント項目を表示します。

3 履歴リストについて

履歴リストを一括消去するには



注意



禁止

有資格者以外は、履歴リストを消去しないでください。

操作

1

『[全履歴から全件表示の確認方法](#)』
(p.86)の操作2までを行います。

2

「メニュー(保守)」スイッチを押します。
「メニュー(保守)」スイッチ灯が点灯します。



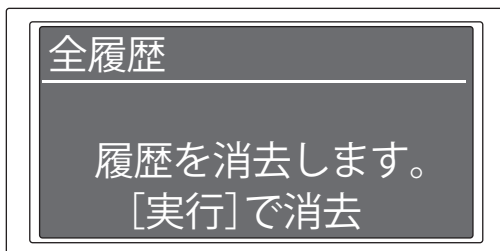
3

「戻る」スイッチを10秒間押します。



4

「実行」スイッチを押します。
履歴が消去され、履歴に[全履歴消去]が記録されます。



Point

履歴リスト表示中に操作2~4を行っても消去が可能です。

3 履歴リストについて

履歴一覧

各イベントでの内容について説明します。

■ 全履歴(記憶できる履歴件数：20,000件)

注) 「■」「●」：数字

注) オプションメッセージなどの詳細情報がある場合、LCD画面右下に「▶」が表示され、「設定/確認」スイッチを押すと内容を確認できます。

注) 【種別名称】、【状態文字】、【移報先】、【スイッチ名称】、【オプションメッセージ】はデータベースの設定内容を表示します。

注) ホスト制御による履歴の場合、LCD画面の日時の右に「HOST」と表示されます。

No	イベント内容	LCD履歴画面
1	電源ON	電源ON
2	DBモード	DBモード
3	施工点検モードON	施工点検モードON
4	施工点検モードOFF	施工点検モードOFF
5	システム停止	システム停止
6	日時設定(変更前の日時)	日時設定(旧)
7	日時設定(変更後の日時)	日時設定(新)
8	全履歴消去	全履歴消去
9	メモリ異常	メモリ異常
10	メモリ異常回復	メモリ異常回復
11	DB異常	DB異常
12	DB異常回復	DB異常回復
13	日時未設定	日時未設定
14	日時未設定回復	日時未設定回復
15	交流電源断	交流電源断
16	交流電源断回復	交流電源断回復
17	予備電源異常	予備電源異常
18	予備電源異常回復	予備電源異常回復
19	回路電圧異常	回路電圧異常
20	回路電圧異常回復	回路電圧異常回復
21	スピーカ異常	スピーカ異常
22	スピーカ異常回復	スピーカ異常回復
23	SDカード異常	SDカード異常
24	SDカード異常回復	SDカード異常回復
25	LCD脱落	LCD脱落
26	LCD脱落回復	LCD脱落回復
27	発信機応答線入力異常	発信機応答線入力異常
28	発信機応答線入力異常回復	発信機応答線入力異常回復
29	FPヒューズ断	FPヒューズ断

3 履歴リストについて

No	イベント内容	LCD履歴画面
30	FPヒューズ断回復	FPヒューズ断回復
31	FIヒューズ断	FIヒューズ断
32	FIヒューズ断回復	FIヒューズ断回復
33	FCヒューズ断	FCヒューズ断
34	FCヒューズ断回復	FCヒューズ断回復
35	FAヒューズ断	FAヒューズ断
36	FAヒューズ断回復	FAヒューズ断回復
37	FBKヒューズ断	FBKヒューズ断
38	FBKヒューズ断回復	FBKヒューズ断回復
39	FDCヒューズ断	FDCヒューズ断 SLU●
40	FDCヒューズ断回復	FDCヒューズ断回復 SLU●
41	MCU-スレーブ間伝送異常(FLU)	伝送異常 MCU-FLU●
42	MCU-スレーブ間伝送異常回復(FLU)	伝送異常回復 MCU-FLU●
43	MCU-スレーブ間伝送異常(SLU)	伝送異常 MCU-SLU●
44	MCU-スレーブ間伝送異常回復(SLU)	伝送異常回復 MCU-SLU●
45	MCU-スレーブ間伝送異常(GLU)	伝送異常 MCU-GLU●
46	MCU-スレーブ間伝送異常回復(GLU)	伝送異常回復 MCU-GLU●
47	MCU-スレーブ間伝送異常(ROU)	伝送異常 MCU-ROU●
48	MCU-スレーブ間伝送異常回復(ROU)	伝送異常回復 MCU-ROU●
49	MCU-スレーブ間伝送異常(SOU)	伝送異常 MCU-SOU●
50	MCU-スレーブ間伝送異常回復(SOU)	伝送異常回復 MCU-SOU●
51	MCU-スレーブ間伝送異常(BCU)	伝送異常 MCU-BCU●
52	MCU-スレーブ間伝送異常回復(BCU)	伝送異常回復 MCU-BCU●
53	MCU-PSU間伝送異常	伝送異常 MCU-PSU
54	MCU-PSU間伝送異常回復	伝送異常回復 MCU-PSU
55	MCU-LPU間伝送異常	伝送異常 MCU-LPU●

3 履歴リストについて

No	イベント内容	LCD履歴画面
56	MCU-LPU間伝送異常回復	伝送異常回復 MCU-LPU●
57	表示機伝送異常	表示機伝送異常 表示機●
58	表示機伝送異常回復	表示機伝送異常回復 表示機●
59	メッセージ表示機異常	メッセージ表示機異常 表示機●
60	メッセージ表示機異常回復	メッセージ表示機異常回復 表示機●
61	ホスト伝送異常	外部伝送異常
62	ホスト伝送異常回復	外部伝送異常回復
63	非常放送線断線	非常放送線断線
64	非常放送線断線回復	非常放送線断線回復
65	非常放送線短絡	非常放送線短絡
66	非常放送線短絡回復	非常放送線短絡回復
67	感知器線断線	感知器線断線 L■回線 ▶
68	感知器線断線回復	感知器線断線回復 L■回線 ▶
69	ガスもれ検知器異常	ガスもれ検知器異常 GL■回線 ▶
70	ガスもれ検知器異常回復	ガスもれ検知器異常回復 GL■回線 ▶
71	不作動	【種別名称】 不作動 D■回線 ▶
72	予備電源試験(手動)開始	予備電源試験(手動) 開始
73	予備電源試験(手動)正常終了	予備電源試験(手動) 正常終了 24.0V ※1
74	予備電源試験(手動)異常終了	予備電源試験(手動) 異常終了 20.4V または 34.0V
75	予備電源試験(手動)強制終了	予備電源試験(手動) 強制終了
76	定期火災試験正常	定期火災試験正常
77	定期火災試験異常	定期火災試験異常 L■回線 ▶
78	定期ガスもれ試験正常	定期ガスもれ試験正常
79	定期ガスもれ試験異常	定期ガスもれ試験異常 GL■回線 ▶
80	総合試験正常	総合試験正常
81	総合試験正常(ガスもれ)	総合試験正常(ガス)

3 履歴リストについて

No	イベント内容	LCD履歴画面
82	総合試験異常	総合試験異常 L■回線 ▶
83	総合試験異常(ガスもれ)	総合試験異常 GL■回線 ▶
84	火災蓄積	【種別名称】蓄積 L■回線 ▶
85	火災蓄積(試験)	【種別名称】試験蓄積 L■回線 ▶
86	連動用感知器蓄積	連動用感知器蓄積 L■回線 ▶
87	連動用感知器蓄積(試験)	連動用感知器試験蓄積 L■回線 ▶
88	火災	【種別名称】火災 L■回線 ▶
89	火災(試験)	【種別名称】試験火災 L■回線 ▶
90	連動用感知器発報	連動用感知器発報 L■回線 ▶
91	連動用感知器発報(試験)	連動用感知器試験発報 L■回線 ▶
92	遅延	【種別名称】遅延 GL■回線 ▶
93	遅延(試験)	【種別名称】試験遅延 GL■回線 ▶
94	ガスもれ	【種別名称】ガスもれ GL■回線 ▶
95	ガスもれ(試験)	【種別名称】試験ガスもれ GL■回線 ▶
96	ガスもれ復帰	【種別名称】ガスもれ復帰 GL■回線 ▶
97	端末装置起動制御	【種別名称】起動制御 D■回線 ▶
98	端末装置復帰制御	【種別名称】復帰制御 D■回線 ▶
99	端末装置作動	【種別名称】【状態文字】 DA■回線 ▶
100	端末装置復帰	【種別名称】復帰 DA■回線 ▶
101	DA諸警報ON	【種別名称】【状態文字】 DA■回線 ▶
102	DA諸警報OFF	【種別名称】【状態文字】OFF DA■回線 ▶

3 履歴リストについて

No	イベント内容	LCD履歴画面
103	個別スイッチ ON	【種別名称】 ON DA■
104	個別スイッチ OFF	【種別名称】 OFF DA■
105	L諸警報ON	【種別名称】【状態文字】 L■回線 ▶
106	L諸警報OFF	【種別名称】【状態文字】OFF L■回線 ▶
107	LX諸警報ON	【種別名称】【状態文字】 LX■ ▶
108	LX諸警報OFF	【種別名称】【状態文字】OFF LX■ ▶
109	移報制御(F)	【移報先】 移報制御 F■ ▶
110	移報制御(S)	【移報先】 移報制御 S■ ▶
111	移報制御(K)	【移報先】 移報制御 K■ ▶
112	発信機作動	発信機作動
113	火災確認信号ON	火災確認信号 ON
114	火災確認信号OFF	火災確認信号 OFF
115	消火栓制御	【種別名称】 制御 H/HC ▶
116	消火栓始動	【種別名称】【状態文字】 HL/HV ▶
117	消火栓停止	【種別名称】【状態文字】OFF HL/HV ▶
118	非常放送中	非常放送中
119	非常放送中回復	非常放送中回復
120	音響停止	音響停止
121	保守音響停止	保守音響停止
122	保守音響停止解除	保守音響停止解除
123	地区音響一時停止	地区音響一時停止
124	地区音響一時停止解除	地区音響一時停止解除
125	保守地区音響停止	保守地区音響停止
126	保守地区音響停止解除	保守地区音響停止解除
127	地区音響自動停止	地区音響自動停止
128	地区音響自動停止解除	地区音響自動停止解除
129	地区音響一斉鳴動	地区音響一斉鳴動

3 履歴リストについて

No	イベント内容	LCD履歴画面
130	地区音響一斉鳴動解除	地区音響一斉鳴動解除
131	地区音響訓練鳴動	地区音響訓練鳴動
132	地区音響訓練鳴動解除	地区音響訓練鳴動解除
133	保守異常音響停止	保守異常音響停止
134	保守異常音響停止解除	保守異常音響停止解除
135	復旧	復旧
136	蓄積	蓄積
137	蓄積解除	蓄積解除
138	遅延	遅延
139	遅延解除	遅延解除
140	蓄積・遅延	蓄積・遅延
141	蓄積・遅延解除	蓄積・遅延解除
142	自動復旧	自動復旧
143	自動復旧解除	自動復旧解除
144	試験復旧	試験復旧
145	試験復旧解除	試験復旧解除
146	消火栓遮断	消火栓遮断
147	消火栓遮断解除	消火栓遮断解除
148	非常放送遮断	非常放送遮断
149	非常放送遮断解除	非常放送遮断解除
150	火災代表遮断	火災代表遮断
151	火災代表遮断解除	火災代表遮断解除
152	防排煙遮断	防排煙遮断
153	防排煙遮断解除	防排煙遮断解除
154	一括遮断	一括遮断
155	一括遮断解除	一括遮断解除
156	メッセージ表示機遮断	メッセージ表示機遮断 表示機●
157	メッセージ表示機遮断解除	メッセージ表示機遮断解除 表示機●
158	故障機器遮断	故障機器遮断
159	故障機器遮断解除	故障機器遮断解除
160	オプションスイッチON	【スイッチ名称】ON OP■
161	オプションスイッチOFF	【スイッチ名称】OFF OP■
162	操作無効	操作無効
163	操作無効解除	操作無効解除
164	防排煙一括起動入力ON	防排煙一括起動入力ON
165	防排煙一括起動入力OFF	防排煙一括起動入力OFF
166	他異常(TR入力端子)ON	他異常(TR入力端子)ON
167	他異常(TR入力端子)OFF	他異常(TR入力端子)OFF

3 履歴リストについて

No	イベント内容	LCD履歴画面
168	スイッチ注意入力ON	スイッチ注意入力ON
169	スイッチ注意入力OFF	スイッチ注意入力OFF

※1：試験終了時の電圧が表示されます。

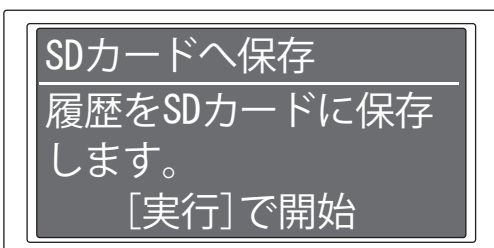
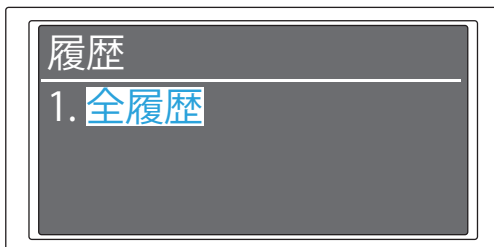
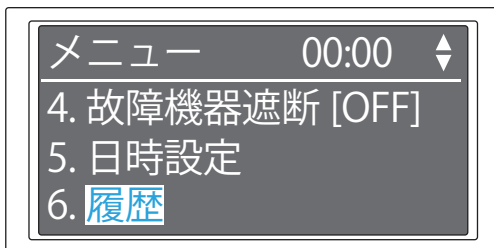
3 履歴リストについて

履歴リストの保存方法



Point

- 履歴リストの保存の前に、本機にSDカードが取り付けられていることを確認してください。SDカードの取り付け方法は『[SDカードの取り付け・取り外し方法](#)』(p.103)を参照してください。また、SDカードの取り扱いに関する注意事項などは、『[6.SDカードの取り扱いについて](#)』(p.103)を参照してください。
- 履歴リストの保存は、[イベント指定][日時指定]の履歴リスト保存は行えません。



操作

1 メニューから「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[6.履歴]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

2 [1.全履歴]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

3 「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[4.SDカードへ保存]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

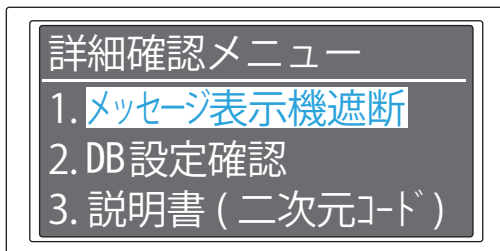
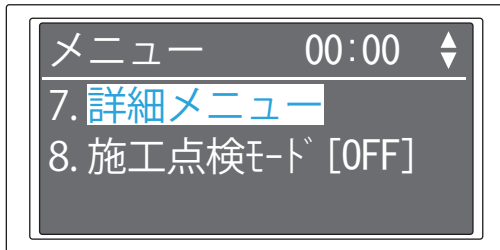
4 「実行」スイッチを押します。
SDカードに履歴リストが保存されます。

4 メッセージ表示機遮断

メッセージ表示機を選択して、個別に通信を遮断することができます。



オプションスイッチにメッセージ表示機遮断を設定している場合、オプションスイッチ操作または一括遮断スイッチ操作によって、すべてのメッセージ表示機への通信を遮断できます。なお、その場合の遮断状態は、本設定には反映されません。



操作

1

メニューから「△(上)」 「▽(下)」スイッチを押して [7.詳細メニュー] を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

2

「△(上)」 「▽(下)」スイッチを押して [1.メッセージ表示機遮断] を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

3

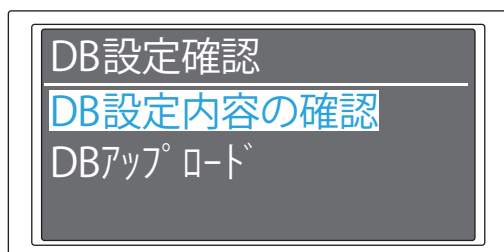
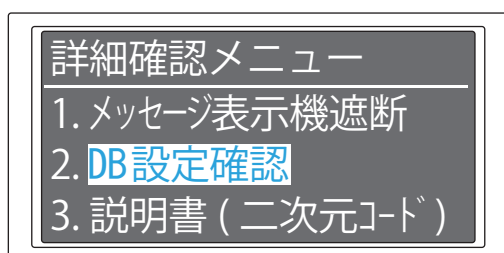
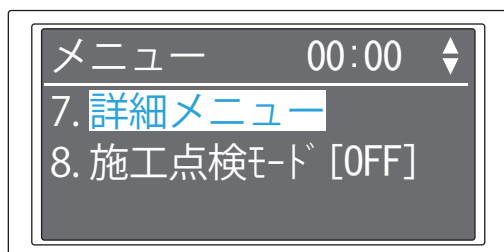
「△(上)」 「▽(下)」 「◀(左)」 「▶(右)」スイッチを押して、通信を遮断したいアドレスを選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

遮断完了です。

5 データベース設定の確認

データベース(DB)設定内容の確認と、データベースをSDカードへアップロードすることができます。

■ データベース設定内容の確認



操作

1 メニューから「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[7.詳細メニュー]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

2 「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[2.DB設定確認]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

3 [DB設定内容の確認]を選択し、「設定/確認」スイッチを押すと、データベース設定した内容を各種確認できます。

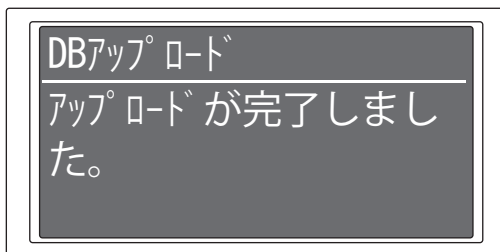
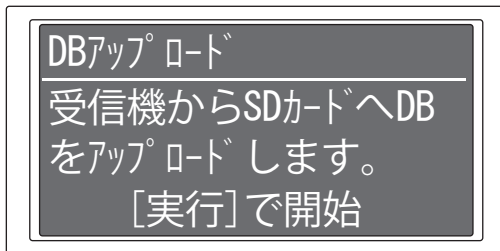
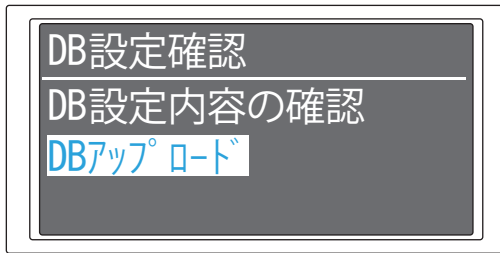
5 データベース設定の確認

■各種データベース設定内容確認の一覧

項目	内容
最大回線設定	設置した最大回線数を確認できます。
防排煙復帰回線	防排煙回線が防排煙復帰回線に設定されているか確認できます。
設備区分(L/DA)	回線ごとの設備区分が確認できます。
音響／音声	受信機の音響・音声設定が確認できます。 ・諸警報回線、防排煙回線、消火栓始動応答入力の作動音響・音声の有無 ・火災回線、防排煙回線の蓄積音響の有無 ・ガスもれ回線の遅延音響の有無
終端設定	20回線ごとの終端設定(10kΩ/20kΩ/CRE(コンデンサ式終端器))を確認できます。
空き回線	「断線・短絡」の監視を停止している回線(空き回線)を確認できます。
OPスイッチ用途	「OP(オプション)」スイッチ1～21に設定した用途の確認ができます。
連動設定	付属設備の各種連動設定の確認ができます。
表示機設定	地区窓式表示機やメッセージ表示機の設定が確認できます。 ・地区窓式表示機：回線ごとの表示機音響出力有無や出力端子 ・メッセージ表示機：回線ごとの出力有無や通信設定
遮断スイッチ	移報先の遮断スイッチ番号設定の確認ができます。
逐次／拡大鳴動時間	地区音響の逐次鳴動時間および拡大警報時間の確認ができます。
蓄積解除回線設定	火災・防排煙回路(L)の蓄積機能の確認ができます。
遅延解除回線設定	ガスもれ回路(GL)の遅延解除機能の確認ができます。
回線・端末文字情報	受信機で扱う各種文字情報の確認ができます。
防排煙順次起動	同時制御回線数、応答故障時間、回線設定の確認ができます。
防排煙一括起動	防排煙回線が一括起動に設定されているか確認できます。
HOST設定	本機と外部通信機(HOST)との通信速度の確認ができます。
非常放送終端器EB±	非常放送回路の断線・短絡監視設定を確認できます。
スイッチ操作音	各スイッチを押したときのスイッチ操作音の有無を確認できます。
諸警報保持	諸警報回線の回線ごとの保持・非保持設定を確認できます。
ガスもれ保持	ガスもれ回線の回線ごとの保持・非保持設定を確認できます。

5 データベース設定の確認

■ データベース設定をSDカードにアップロードするには



操作

1

『データベース設定の確認』(p.100)の操作2までを行います。

2

「△(上)」 「▽(下)」スイッチを押して「DBアップロード」を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

3

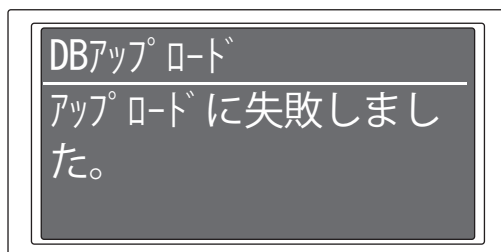
「実行」スイッチを押します。

アップロード完了画面が表示されたらアップロード完了です



Point

- ・ SDカードを別途用意し、本機へ取り付けていただく必要があります。取り付け方法は、『[SDカードの取り付け・取り外し方法](#)』(p.103)を参照してください。また、SDカードの取り扱いについては、『[6.SDカードの取り扱いについて](#)』(p.103)を参照してください。
- ・ アップロードに失敗した場合、下の画面が表示されます。SDカードの接続等を確認し、再度アップロードしてください。



6 SDカードの取り扱いについて

SDカードの取り扱い方法について説明します。

なお、出荷状態では、SDカードは取り付けられていません(別手配)。

SDカードを使用して、『履歴リストの保存方法』(p.98)や『**■ データベース設定をSDカードにアップロードするには**』(p.102)にてデータの書き込みまたは読み込みできます。

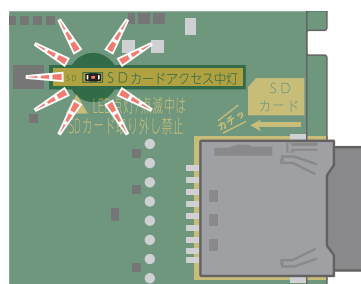


注意



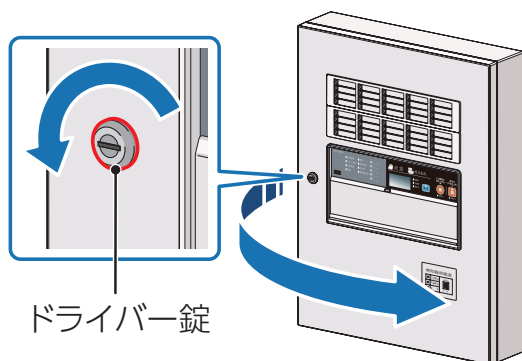
強制・指示

- SDカードは、弊社指定品をご使用ください。弊社指定品以外をご使用されると、正常に動作しない場合があります。
- SDカードは、高温・直射日光・多湿を避けて下さい。また、曲げたり、強い力やショックを加えたり、落下させたりしないようにして下さい。故障の原因になります。
- SDカードのアクセス中は、「アクセス中灯」が点灯/点滅します。SDカードと基板とのメモリ間でデータを転送していますので、決してSDカードを取り外さないでください。データの破損や故障の原因になります。
- SDカード取り付け時は、取り付け向きに注意して下さい。データの破損や故障の原因になります。



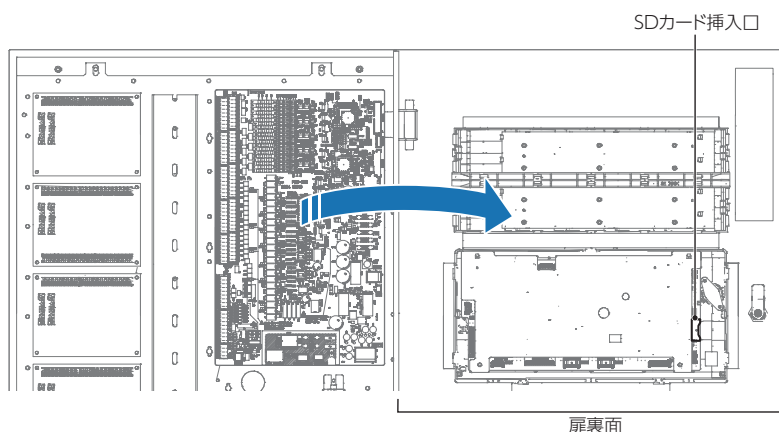
■ SDカードの取り付け・取り外し方法

下図はFCSJ40LTタイプの場合の例です。



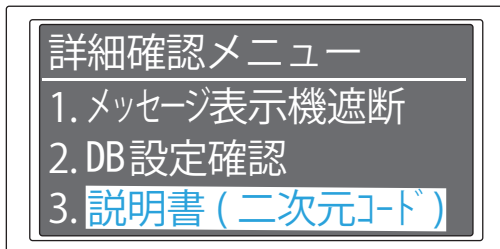
操作

- 1 工具を使い、ドライバー錠を90度左に回します。
- 2 本機の扉を開けます。
- 3 本機(扉裏面)に取り付けられた基板上部のSDカード挿入口へSDカードを挿入し、カチッと音が鳴るまで押し込みます。
また、再度カチッと音が鳴るまで押し込むことで取り外すことができます。



7 説明書 (二次元コード)

本機製品情報が記載されたWebページへご案内する二次元コードを表示します。
スマートフォンのカメラ機能・二次元コード読み取りアプリ等で読み取り、ご覧いただけます。



操作

1

メニューから「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[7.詳細メニュー]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

2

「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[3.説明書(二次元コード)]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

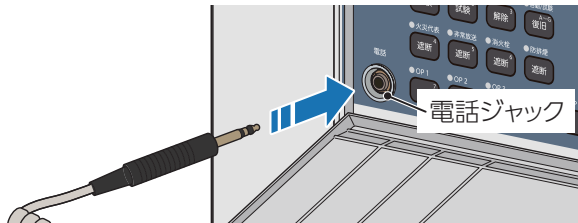
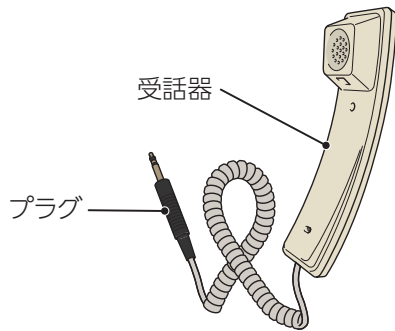
画面に二次元コードが表示されます。

二次元コード表示画面から「戻る」スイッチを押すと詳細メニューに戻ります。

8 電話の取り扱いについて

ここでは、電話の取り扱い方法について説明します。

発信機または表示機から電話の呼び出しを受けると、本機は「プルルル 電話です」と電話呼び出し音響が鳴り、「電話」灯が点滅します。



操作

1

受話器のプラグを本機の電話ジャックに差し込みます。

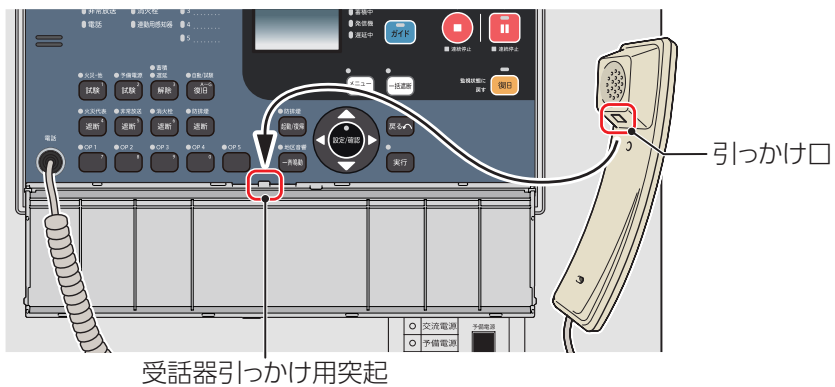
電話呼び出し音響が停止し、「電話」灯が点灯します。

通話ができます。



Point

- ・ 電話の呼び出しを受けていない場合に、受話器のプラグを電話ジャックに差し込むと、「電話」灯が点滅します。その状態で発信機または表示機から呼び出しを受けると、「プルルル」と電話呼び出し音響が1回鳴り、「電話」灯が点灯し、通話ができます。
- ・ 受話器はスイッチカバーに引っかけることができます。



9 操作無効機能

操作無効機能とは、盤面上の「メニュー(保守)」スイッチを除くすべてのスイッチの盤面操作を無効にする機能です。



Point

操作無効機能は、以下の状態では設定できません。

- 火災・連動用感知器の作動時(蓄積機能の作動を含む)
- ガスもれ検知器の作動時(ガスもれ遅延機能の作動を含む)
- メニューの各項目を確認・操作している状態
- 以下の状態以外の要因でスイッチ注意灯が点滅している場合
 - ・ 各種遮断スイッチのオン
 - ・ 各種保守音響停止状態(保守音響停止、保守異常音響停止、保守地区音響停止)

操作無効機能を設定するには

操作無効機能を設定する場合は、以下のように操作してください。



操作

1

「メニュー(保守)」スイッチを押します。

「メニュー(保守)」灯が点灯します。

2

「設定/確認」スイッチを5秒間押します。

LCD画面に[操作無効モード]と表示され、操作無効状態となり、「操作無効」灯が点滅します。

操作無効機能を解除するには

操作無効機能を解除する場合は、以下のように操作してください。



操作

1

「メニュー(保守)」スイッチを押します。

「メニュー(保守)」スイッチ灯が点灯します。

2

「設定/確認」スイッチを押します(5秒間押す必要はありません)。

操作無効機能が解除され、「操作無効」灯が消灯します。



Caution

操作無効状態中であっても、以下の場合には操作無効機能は自動的に解除され、すべてのスイッチ操作ができるようになります。

- 火災警報時
- ガスもれ警報時
- 端末作動時
- 予備電源作動時
- 消火栓作動時
- 異常時
- 連動用感知器作動時
- 諸警報時

なお、蓄積時、遅延時、電話呼び出し時、およびデータベース設定にて音響/音声無しに設定されている回線が動作したときには、操作無効機能は解除されません。

■P型1級火災受信機

種 別	P型1級火災受信機 (蓄積式)
型 名	FAPJ106N-B1-30 ~ 60L / LT
プリンタ接続	不可
メッセージ表示機接続	可
オプションメッセージ表示機能	あり
回線数	30, 40, 50, 60
構 造	露出、壁掛型
国検型式番号	受第2023~15号
CUD認証	カラーユニバーサルデザイン機構2023年基準に適合
主電源	AC100V±10%, 50/60Hz
予備電源	密閉形ニッケル・カドミウム蓄電池内蔵、トリクル充電方式 DC24V 1.2Ah (30~50L)、DC24V 1.65Ah (60L)
回路電圧	<ul style="list-style-type: none"> ・感知器、表示機 DC24V (定電圧電源) ・蓄電池充電回路 DC48V (半波整流電源) ・地区音響 DC24V (全波整流電源) ・表示灯回路 AC24V ・マイコン、IC、表示回路 DC5V、DC3.3V (定電圧電源)
消費電力	<ul style="list-style-type: none"> ・警戒時：最大約40VA ・作動時：最大約100VA
感知器・発信機接続機種	一般型感知器 (差動、定温、炎、光電、光電分離、イオン)、一般型発信機
接続機器個数	回線ごとの煙感知器数 ^{*1} <ul style="list-style-type: none"> ・終端抵抗10kΩ : 非蓄積型煙感知器30個 (蓄積型煙感知器は接続できません) ・終端抵抗20kΩ : 非蓄積型煙感知器12個 (蓄積型煙感知器は接続できません) ・CRE (コンデンサ式終端器) : 非蓄積型煙感知器30個 (蓄積型煙感知器は接続できません)
	受信機の煙感知器数 ^{*2} <ul style="list-style-type: none"> ・30個×回線数 (終端抵抗10kΩ) ・12個×回線数 (終端抵抗20kΩ) ・30個×回線数 (CRE (コンデンサ式終端器))
	地区音響装置

接続機器個数	表示灯	14個(30V、2Wランプ)、40個(24V、21mA LED)、56個(24V、15mA LED)
	表示機	・メッセージ表示機：31台 ・P型1級表示機：4台(表示機移報(In, B+)はなし。移報接点Fn(標準25点 ^{※3} +オプション点数(T付) ^{※4})または、P型インターフェイス盤で対応)
公称蓄積時間		60秒(熱感知器：10秒、煙感知器：60秒)
主音響装置		音声警報、後続再鳴動方式
試験・点検機能		火災試験：1回線ごとに手動で火災表示・警報・連動機能を試験 総合試験：盤面表示灯の全点灯および、1回線から順次火災受信回路を試験 予備電源試験：予備電源電圧を試験 定期受信回路試験：定期的(月曜日AM10時)に火災受信回路を試験 試験復旧：火災受信回路の自己保持解除 自動復旧：感知器発報後、約8秒後に自動復旧
LCD表示		グラフィック液晶(2.4型) 火災・端末装置表示、異常表示、メニュー表示 英数・記号・カタカナ(半角全角)、ひらがな、JIS 第1・第2水準漢字
履歴リスト		全履歴：20,000件
環境条件		使用温度範囲:0℃～40℃、使用湿度範囲:20%～85%(結露無きこと)
外部配線抵抗・容量		往復50Ω以下
外形(mm)		W530 × H700 × D125
主材		鋼板 t1.6(本体)、t1.2(扉)
仕上		焼付塗装:ノーミホホワイト(NW)(マンセルN8.7半ツヤ近似色)
質量		約22kg(30、40L)、約25kg(50、60L)
付属品		工事前予備品、かんたんガイド、蓄電池、送受話器、予備品箱、施工説明書、データベース設定説明書

※1：機械式以外の感知器接続数は以下の通り

終端抵抗10kΩ、CRE：差動防水型感知器(FDPJ226N-DW-X)は30個、炎感知器(FDCJ002-R-X)は20個、
(コンデンサ式終端器) 光電式分離型感知器(FDGJ203-D-Xシリーズ)は2個まで接続可能。

終端抵抗20kΩ：差動防水型感知器(FDPJ226N-DW-X)は12個、炎感知器(FDCJ002-R-X)は8個、
光電式分離型感知器(FDGJ203-D-Xシリーズ)は1個まで接続可能。

※2：※1の感知器については、回線数×(※1の個数)

※3：標準移報接点うち20点(F6～25)を5回線コモン単位のジャンパーピン設定により、地区音響有電圧出力または無電圧a接点に選択します。なお、オプション移報用のROU-106基板および、P型インターフェイス盤に内蔵するSOU-104基板は地区音響有電圧出力にはできません(無電圧a接点専用)。

※4：T=移報増設(ROU-106基板付) 30,40L=40点、50,60L=20点

■P型1級複合火災受信機

種 別	P型1級複合火災受信機 (蓄積式)	
型 名	FCSJ106N-B1-30,40L / LT FCSJ106N-B21-50,60L / LT FCSJ106N-B34-70 ~ 100L / LT FCSJ106N-J3A-50 ~ 100L / LT	FCSJ106N-B1-10 ~ 40LM FCSJ106N-B21-50,60LM FCSJ106N-J3A-70,100LM
プリンタ接続	不可	
メッセージ表示機接続	可	
オプションメッセージ表示機能	あり	
回線数	30, 40, 50, 60, 70, 80, 90, 100	10, 15, 20, 30, 40, 50, 60, 70, 100
構 造	B1, B21, B34 : 露出、壁掛型 J3A : 自立型	
国検型式番号	受第2023~15号	
自主評定マーク 使用許可番号	A-23-4	
CUD認証	カラーユニバーサルデザイン機構2023年基準に適合	
主電源	AC100V±10%, 50/60Hz	
予備電源	密閉形ニッケル・カドミウム蓄電池内蔵、トリクル充電方式 DC24V 3.5Ah(10~50L)、DC24V 4Ah(60,70L)、DC24V 6Ah(80~100L)	
回路電圧	<ul style="list-style-type: none"> ・感知器、表示機 DC24V(定電圧電源) ・蓄電池充電回路 DC48V(半波整流電源) ・地区音響、自動閉鎖装置 DC24V(全波整流電源) ・表示灯回路 AC24V ・マイコン、IC、表示回路 DC5V、DC3.3V(定電圧電源) 	
消費電力	<ul style="list-style-type: none"> ・警戒時：約60VA ・作動時：約210VA 	
感知器・発信機 接続機種	一般型感知器(差動、定温、炎、光電、光電分離、イオン)、一般型発信機	
接続機器 個数	回線ごとの 煙感知器数 ^{※1}	<ul style="list-style-type: none"> ・終端抵抗10kΩ : 非蓄積型煙感知器30個(蓄積型煙感知器は接続できません) ・終端抵抗20kΩ : 非蓄積型煙感知器12個(蓄積型煙感知器は接続できません) ・CRE(コンデンサ式終端器) : 非蓄積型煙感知器30個(蓄積型煙感知器は接続できません)
	受信機の 煙感知器数 ^{※2}	<ul style="list-style-type: none"> ・30個×回線数(終端抵抗10kΩ) ・12個×回線数(終端抵抗20kΩ) ・30個×回線数(CRE(コンデンサ式終端器))

10 仕様

地区音響装置	DC24V、10mA：45個(10～50L)、60個(60～100L)	
表示灯	14個(30V、2Wランプ)、40個(24V、21mA LED)、56個(24V、15mA LED)	
接続機器個数 表示機	<ul style="list-style-type: none"> ・メッセージ表示機：31台 ・P型1級表示機：4台(表示機移報(In、B+)はなし。移報接点Fn(標準25点^{*3}+オプション点数(T付^{*4})または、P型インターフェイス盤で対応) 	<ul style="list-style-type: none"> ・メッセージ表示機：31台 ・P型1級表示機：4台(表示機移報(In、B+)はなし。移報接点Fn(標準25点^{*3}または、P型インターフェイス盤で対応)
防排煙回路極性	プラスコモン	マイナスコモン
防排煙回線数	5(10L)、10(15、20L)、20(30、40L)、30(50、60L)、40(70、80L)、50(90、100L)	
防排煙電源	2A ^{*5}	
常時通電灯電源	150mA ^{*5}	
公称蓄積時間	60秒(熱感知器：10秒、煙感知器：60秒)	
主音響装置	音声警報、後続再鳴動方式	
試験・点検機能	<ul style="list-style-type: none"> 火災試験：1回線ごとに手動で火災表示・警報・連動機能を試験 総合試験：盤面表示灯の全点灯および、1回線から順次火災受信回路を試験 予備電源試験：予備電源電圧を試験 定期受信回路試験：定期的(自動試験後)に火災受信回路を試験 試験復旧：火災受信回路の自己保持解除 自動復旧：感知器発報後、約8秒後に自動復旧 	
LCD表示	グラフィック液晶(2.4型) 火災・端末装置表示、異常表示、メニュー表示 英数・記号・カタカナ(半角全角)、ひらがな、JIS 第1・第2水準漢字	
履歴リスト	全履歴：20,000件	
環境条件	使用温度範囲:0℃～40℃、使用湿度範囲:20%～85%(結露無きこと)	
外部配線抵抗・容量	往復50Ω以下	
外形(mm)	W530 × H700 × D125(10～40L)、 W530 × H850 × D150(50～60L)、 W530 × H1000 × D160((B34)70～100L)、 W600 × H2000 × D300((J3A)70,100L)	
主材	露出、壁掛型：鋼板 t1.6(本体)、t1.2(扉) 自立型：鋼板 t1.6(本体、扉)	

10 仕様

仕 上	焼付塗装:ノーミホワイト(NW) (マンセルN8.7半ツヤ近似色)
質 量	約24kg(10~20L)、約27kg(30、40L)、 約32kg(50、60L)、約37kg((B34)70~100L)、約83kg((J3A)70、100L)
付属品	工事用予備品、かんたんガイド、蓄電池、送受話器、予備品箱、施工説明書、データベース設定説明書

※1：機械式以外の感知器接続数は以下の通り

終端抵抗10kΩ、CRE (コンデンサ式終端器) : 差動防水型感知器(FDPJ226N-DW-X)は30個、炎感知器(FDCJ002-R-X)は20個、
光電式分離型感知器(FDGJ203-D-Xシリーズ)は2個まで接続可能。

終端抵抗20kΩ : 差動防水型感知器(FDPJ226N-DW-X)は12個、炎感知器(FDCJ002-R-X)は8個、
光電式分離型感知器(FDGJ203-D-Xシリーズ)は1個まで接続可能。

※2：※1の感知器については、回線数×(※1の個数)

※3：標準移報接点うち20点(F6~25)を5回線コモン単位のジャンパーピン設定により、地区音響有電圧出力または無電圧a接点に選択します。なお、オプション移報用のROU-106基板および、P型インターフェイス盤に内蔵するSOU-104基板は地区音響有電圧出力にはできません(無電圧a接点専用)。

※4：T=移報増設(ROU-106基板付) 10~20L=20点、30、40L=40点、50~100L=20点

※5：常時通電灯の電源容量を増やしたい場合、防排煙電源を150mA減らすことで、15mA増やせます。

索引

い

異常音響の停止方法	49
異常警報一覧	47
異常時の操作	46

お

オプションスイッチによる移報遮断	64
------------------	----

か

各試験の終了方法	73
火災音響の停止方法	31
火災試験の結果	68
火災試験の終了方法	73
火災試験の方法	65
火災時の操作	29
火災代表移報遮断	64
火災復旧	37
ガスもれ音響の停止方法	43
ガスもれ誤報だったときは	42
ガスもれ試験の結果	73
ガスもれ試験の方法	71
ガスもれ遅延機能について	
ガスもれ遅延解除	62
ガスもれ遅延機能	40
ガスもれ遅延時間試験の方法	77
ガスもれ復旧	45

し

試験復旧	79
消火栓ポンプ制御機器の始動	35
消火栓ポンプ制御機器の連動遮断	63

す

スイッチ操作について	19, 53
------------	--------

せ

正常な監視状態	26
---------	----

そ

総合試験の結果	70
総合試験の方法	68
操作無効機能の解除	106
操作無効機能の設定	106

た

端末作動音響の停止方法	35
-------------	----

ち

地区音響(地区ベル)一斉鳴動	33
地区音響(地区ベル)の逐次鳴動時間・拡大警報時間	32
地区音響(地区ベル)の停止方法	31
蓄積機能について	
蓄積解除	62
蓄積機能	28
蓄積時間試験の方法	76
蓄積／遅延同時解除	62

て

停電時の状態	27
電話呼び出しについて	
火災音響鳴動中は	30
表示機から本機を電話呼び出しするには	36, 44

ひ

非火災報だったときは	30
非常放送の移報遮断	64
非常放送の連動移報	36
表示機の音響停止方法	
火災音響を停止するには	31
ガスもれ音響を停止するには	43

ふ

付属設備の動作と操作	
火災時は	32
ガスもれ時は	43
付属設備の連動・移報の一括遮断	63

ほ

防排煙設備の作動	34
防排煙設備の連動遮断	63
保守異常音響停止解除	61
保守異常音響停止設定	60
保守音響停止解除	61
保守音響停止設定	60
保守地区音響停止解除	61
保守地区音響停止設定	61

よ

予備電源試験の結果	75
予備電源試験の終了方法	75
予備電源試験の方法	74

り

履歴リスト	
全履歴の確認方法	86
履歴一覧	91

れ

連動遮断、移報遮断の解除	64
--------------	----

L

LEDの点滅周期	12
----------	----

NOHMI 能美防災株式会社

本 社	〒102-8277 東京都千代田区九段南4-7-3 TEL.(03)3265-0211 (代)			
支 社	北海道(011)746-6911	東 北(022)221-2695	新 潟(025)243-8121	丸の内(03)3213-1781
	茨 城(029)239-5280	千 葉(043)266-0303	北関東(048)669-2255	西関東(042)643-1520
	横 浜(045)682-4700	静 岡(054)340-0013	中 部(052)589-3241	長 野(026)227-5521
	北 陸(076)252-6211	関 西(06)6330-8661	京 都(075)694-1192	中 国(082)510-1125
	岡 山(086)244-4222	九 州(092)712-1560		
営 業 所	旭 川(0166)25-5600	青 森(017)729-0532	盛 岡(019)645-0552	秋 田(018)862-5086
	郡 山(024)947-1194	福 島(024)528-4195	羽 田(03)5757-9393	渋 谷(03)3461-1051
	新 宿(03)5990-5770	城 東(03)3626-2461	土 浦(029)822-3851	宇都宮(028)637-4317
	群 馬(027)328-1567	埼玉西(049)247-4640	沼 津(055)955-5227	浜 松(053)473-3422
	三 重(059)226-9860	岐 阜(058)201-3771	富 山(076)444-1450	福 井(0776)21-0056
	神 戸(078)334-3581	四 国(087)868-6811	北九州(093)583-3344	長 崎(095)845-0135
	熊 本(096)360-1051	大 分(097)543-2778	宮 崎(0985)28-8792	鹿児島(099)253-8196
工 場	沖 縄(098)862-4297			
場	三 鷹(0422)44-5141	メヌマ(048)588-1531		

URL <https://www.nohmi.co.jp/>

記載の電話番号は2024年1月現在のものです。

お問い合わせは…

- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更する場合があります。
- このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。
- 落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。